

事業計画書

2021

HOPE to
NEW ERA 

The Creed of Junior Chamber International

JCI 綱領

We Believe :
That faith in God gives meaning
and purpose to human life;
That the brotherhood of man
transcends the sovereignty of nations;
That economic justice can best be won
by free men through free enterprise;
That government should be of laws
rather than of men;
That earth's great treasure lies in
human personality; and
That service to humanity is the best
work of life.

我々はかく信じる：
「信仰は人生に意義と目的を与え
人類の同胞愛は国家の主権を超越し
正しい経済の発展は
自由経済社会を通じて最もよく達成され
政治は人によって左右されず法によって
運営されるべきものであり
人間の個性はこの世の至宝であり
人類への奉仕が人生最善の仕事である」

<1947 年世界会議総会採択>

<1951 年一部追加>

JC 宣言

日本の青年会議所は
希望をもたらす変革の起点として
輝く個性が調和する未来を描き
社会の課題を解決することで
持続可能な地域を創ることを誓う

綱領

われわれ JAYCEE は
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者 相集い 力を合わせ
青年としての
英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう

JCI Mission

To provide development opportunities
that empower young people
to create positive change.

JCI ミッション

より良い変化をもたらす力を青年に与えるために
発展・成長の機会を提供すること
<2008 年世界会議総会採択>

JCI Vision

To be the leading global network of
young active citizens.

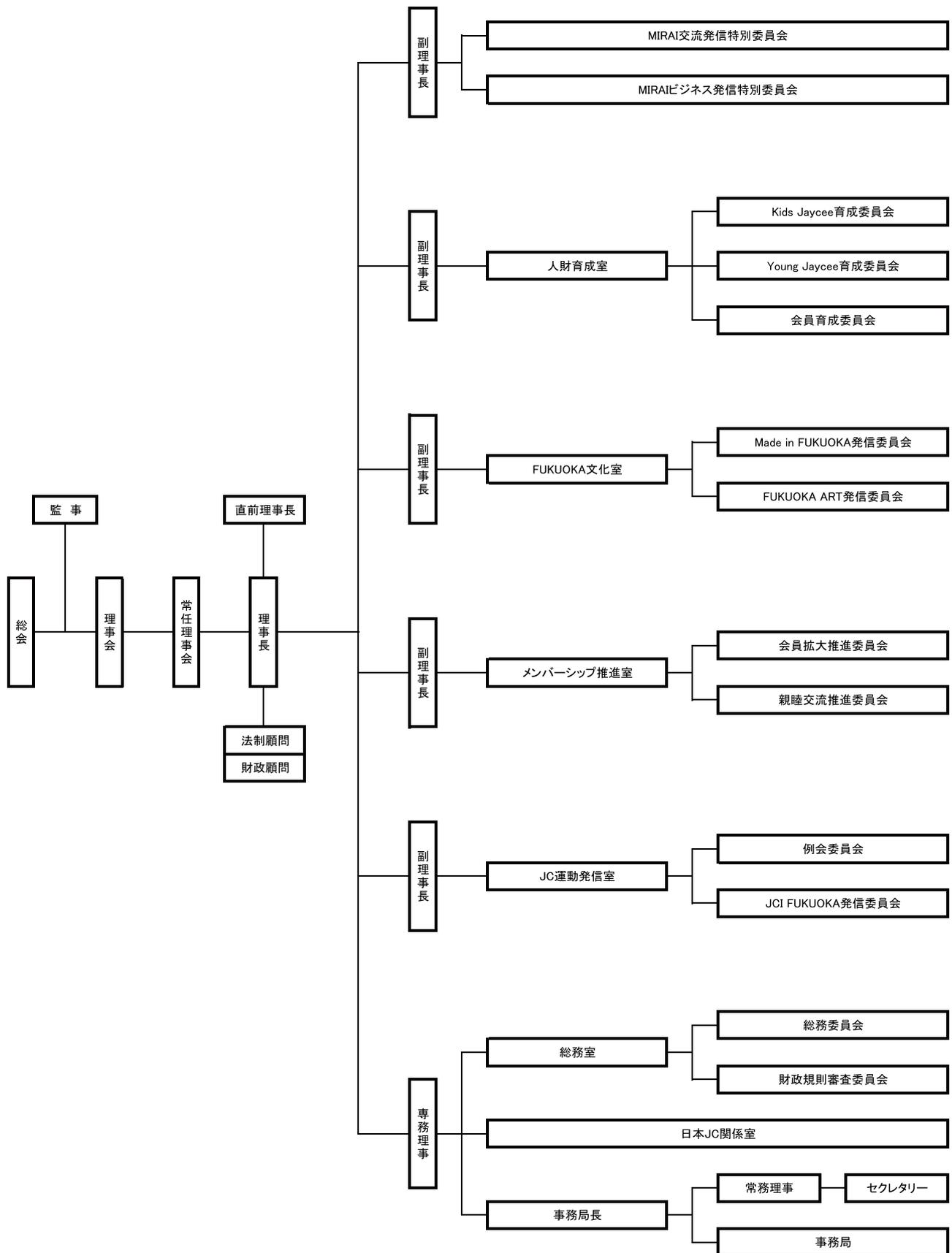
JCI ビジョン

若き能動的市民の主導的な
グローバル・ネットワークになること
<2008 年世界会議総会採択>

目次

| | | |
|--------|---|----|
| 2021年度 | 組織図 | 2 |
| 2021年度 | 役員 | 3 |
| 2021年度 | 理事長所信 | 4 |
| 2021年度 | 理事長、直前理事長、副理事長、専務理事、 監事、法制顧問、財政顧問、事務局長、 常務理事、セクレタリー | 10 |
| 2021年度 | 室・委員会 基本方針・事業計画 | 12 |
| 2021年度 | 室・委員会 所務分掌規程 | 32 |
| 2021年度 | 委員会編成表 | 34 |
| | 青年会議所の概況 | 35 |
| 2021年度 | 日本JC、九州地区協議会、福岡ブロック協議会 組織図 | 36 |
| | 福岡青年会議所 歴代理事長 | 39 |
| | 出向外部団体一覧 | 40 |

一般社団法人 福岡青年会議所
2021年度 組織図



一般社団法人 福岡青年会議所 2021年度 役員

| | | | |
|------|---|---------|----------------------|
| 理事長 | 彌 登 義 明 | 直前理事長 | 出 田 正 城 |
| 副理事長 | 橋 本 久 志 古 市 剛 前 川 裕 貴 蓑 毛 亮 西 嶋 聖 | 監 事 | 井 川 陽 介 中 野 雄 将 |
| 専務理事 | 戸 嶋 太 一 | 法 制 顧 問 | 多 賀 谷 兵 馬 山 口 剛 弘 |
| | | 財 政 顧 問 | 高 木 正 太 郎 松 岡 将 史 |

| | | |
|------|---|---|
| 常任理事 | 榎 本 淳 一 中 原 壯 一 朗 金 海 安 州 之 年 岡 裕 也 水 崎 浩 二 加 地 大 希 堤 祐 一 郎 吉 田 悠 二 石 坂 泰 三 | 事務局長 MIRAI交流発信特別委員長 MIRAIビジネス発信特別委員長 人財育成室長 FUKUOKA文化室長 メンバーシップ推進室長 JC運動発信室長 総務室長 日本JC関係室長 |
| 理 事 | 古 田 真 幸 伊 藤 慎 吾 山 崎 大 士 尾 本 勝 征 榊 洋 章 黒 川 友 成 阿 部 健 太 郎 新 谷 健 一 原 翼 石 崎 裕 一 諸 岡 久 司 三 浦 隆 祐 鍋 山 健 吾 奥 膳 和 時 安 田 拓 司 | Kids Jaycee育成委員長 Young Jaycee育成委員長 会員育成委員長 Made in FUKUOKA発信委員長 FUKUOKA ART発信委員長 会員拡大推進委員長 親睦交流推進委員長 例会委員長 JCI FUKUOKA発信委員長 総務委員長 財政規則審査委員長 (日本青年会議所 副委員長) (九州地区協議会 議長) (福岡ブロック協議会 委員長) (福岡ブロック協議会 委員長) |
| 常務理事 | 山 野 晋 吉 田 豊 | |

HOPE to NEW ERA



理事長 彌登義明

仏教に自灯明という言葉があります。解釈のされ方は様々ですが、私は「己が世に光を照らす拠り所となり、如何なる時も己を信じて歩みを進めなければならない」と認識しています。困った時は仲間を頼り、道に迷えば人に尋ねる。しかし、結局最後は己がどうするのか、どの道を歩むのかを決めなければなりません。人が歩みを止める時、それは絶望した時ではなく諦めた時。人が歩みを進める時、それは希望がある時ではなく自らが希望の光となる覚悟を持った時。突如日常を奪われた今、もがき苦しみながらも自らの意思で時代の流れを常に把握し、自らが人々の拠り所となる光となって、その光によって現れた明るい未来に向かってそれぞれが歩みを進めていかなければなりません。

【希望の光を、そして新たな時代へ導く】

2020年1月末、中国を起点に感染が広がった新型コロナウイルスは恐ろしいスピードで世界中に蔓延し、健康被害だけでなく経済にも大きな打撃を与えました。同年4月7日には我が日本国においても緊急事態宣言が発令され、感染拡大を防止するべく人と人との交流や接触が8割減らされ、これまで当たり前のように過ごしてきた日常生活は失われてしまいました。その結果、正常な経済活動を行うことが困難になり、多くの人々が職を失う事態になっています。

しかし、我々は今こそ知らなければならない。戦後最大の国難と言われる今のような事態を、先人たちは乗り越えてきた実績があるということ。1274年の元寇、1853年の黒船来航、1941年から1945年の大東亜戦争。そして1953年、まだ日本の将来すら見えない時代に戦後の荒廃からこのまちを復興させるべく立ち上がった50名の若者たちが、ここ福岡にいたことを。

空襲により家族、友人を失うだけでなく、職場や住む家すらも失った時代と同じように、人々が必死に生きるために吐き出した息の音や、全てが燃えてしまった臭いこそしないものの、目に見えないウイルスによって日に日に衰弱していくまちの姿が今、目の前にあります。

だからこそ今、福岡青年会議所の創始の精神を胸に、会員一人ひとりが希望とともに、光満ち溢れる新時代へと人々を導いていくという強い責任と覚悟が必要です。2021年

度では、2023年に迎える福岡青年会議所創立70周年に向けて、会員同士の絆を以前より更に強固なものとし、それぞれが力強く立ち上がり、前進するための基礎となる人づくりを中心としながら、新型コロナウイルス終息後の課題である経済復興に繋がる運動を行って参ります。

【経済復旧ではなく、経済復興。そして希望のきざし】

第三次産業が9割である我々が住み暮らすまち福岡は、情報も人も行き交う都市として人口や観光客数が右肩上がり増加し、日本でも有数の都市へと成長を遂げてきました。この成長を紐解くと、1965年に我々の先輩たちが行った「人間都市（ヒューマンシティ）宣言」によって、産業化する日本において、モノづくりではない分野、即ち商業都市こそ未来の福岡のあるべき姿であるとして行政と共にこれを推進し、その結果今の福岡があります。その後、我々は福岡市に対して2010年にはアジア交流首都宣言、2016年にはGrand Design Fukuokaといった提言を行う中で、福岡市もアジアのリーダー都市を宣言し、交流人口の増加によって更なる成長を促す運動を展開してきました。

この度の感染拡大は、その方針にストップをかけるだけでなく、大きな損失をまちに与えています。このような状況の中、我々がすべき運動は苦しむ企業を金銭面で助けていくことではなく、問題の根本から向き合うことです。如何にしてウイルスと共存し、そこから立ち直るきっかけを企業に、社会に与えていくかが大切なのではないのでしょうか。我々はウィズコロナ・アフターコロナと言われるこれからの時代において、短期、中期、長期それぞれのフェーズにおける新しいカタチのビジネスロールモデルを確立していこうと考えています。特に長期フェーズにおいては、2019年からインバウンド強化を目的として展開しているIR（統合型リゾート）誘致に向けた運動をより具体的なビジョンを提案しながら加速させ、経済復興の起爆剤にする必要があります。

単年度制のJCであろうとも、複数年で物事をとらえ波及効果を追求し果敢に挑戦することが、今までにない創造力を生み出し、深化させることで、福岡をより強いまちにし、それが九州の経済復興、ひいては日本再生へ繋がるという希望のきざしになると確信しています。

【今こそ郷土愛を育み、健全な心を育む】

これまで日本においても世界においても、幾多の争いごと、戦争が繰り広げられた悲しい歴史があります。侵略を続けて領土を広げ、繁栄を遂げた国がありましたが、今日まで残っている国はないといっても過言ではありません。それは、その土地土地で大切に受け継がれてきた歴史や伝統、文化を排除し、文明を優先した改革を行ってきたからに

他なりません。文化は長い年月に渡り積み重なり、知らず知らず、そこに住む者の DNA に脈々と受け継がれています。福岡にも博多織や博多人形をはじめ、世界に誇れる食文化や伝統的な祭が存在します。

その中でも特に芸術は人々の心に豊かさを与えるものであります。現在福岡市では歩きやすいまち福岡を掲げ、一人一花運動を展開していますが、これも心を豊かにする新たな文化のひとつではないでしょうか。集うことが困難になり、外は怖いといったイメージもつきつつある今だからこそ、文化によって人々に少しでも心に余裕を、そして幸福を与えることが必要だと考えます。文化と文化が折り重なっていくことで変化が起これ、新しい文化が生まれていくような好循環を生み出していきたいと思います。

【産学官民の連携を活用する】

20 歳から 40 歳の青年が集う我々の団体は、自分たちの会費で全ての事業を行ういわば独立自尊の組織であります。独立自尊の組織だからこそ、失敗を恐れず大胆に運動を展開できるわけですが、時代の変化に対応した運動を展開しなければ、孤立した団体になってしまう可能性をもはらんでいます。幸い我々には、我々の運動を支援して下さる多くの企業が存在します。また、このまちには国内外の若き才能が所属し、幅広い分野の最先端な授業を受ける環境が整う多くの学び舎も存在します。そして何より、福岡市は若きリーダーによる常識にとらわれない革新的な取り組みによって、生活しやすく、子育てもしやすいだけでなく、起業などのチャンスに溢れた都市でもあります。

この愛するまち福岡を今まで以上に発展させていくには、産学官民(民間企業、学校、行政、市民)の連携が必要不可欠であります。個と個の結びつきは大きな力となりますし、近年ではアイデア溢れる若者と企業や団体が手を取り合って新たなイノベーションが生まれている事例も多数あります。

また、2019 年に青年会議所は国連が推奨する SDGs を日本で 1 番推進する団体になることを決議しています。そうであるならば、福岡で FUKUOKA のために活動する我々は SDGs に加え、行政が推進する FUKUOKA NEXT をはじめとする様々な取組みに目を向け、行政や企業では手が届かないところ、学校や市民が求めているところを、我々でしかできない形で推進することで、福岡のまちを大きく巻き込み、福岡を再生し、九州、日本をも再生する気概を持って運動を展開して参りましょう。

【若者や親世代の意識改革と変革の機会】

いつの時代も若者が時代を牽引してきました。流行というものは全て若者から生まれていると言っても過言ではないでしょう。また、インターネットの普及によって、その言

動は多くの若者に加速度的に伝播していきます。インターネットは今や現代社会における大人を含めた情報を得る貴重なツールにもなっています。しかし、この便利な道具も使い次第であります。時に人の力となり、時に凶器にもなってしまふことはインターネット普及時より問題視されており、依然として明確な解決策が見出せずにいるのが現状です。だからといって、インターネットというツール無しでは、もはや生活ができなくなってきている今だからこそ、それを使う人が学び、自らが答えを出し、正しく活用できるようになること、つまりメディアリテラシー教育を推進することが必要不可欠です。そのためには2019年から始まったYoung Jaycee(16歳～25歳を基準)を活用し、自らで真実を捉え、答えを出し、行動することによってマインドチェンジする機会を提供する必要があります。

また、同時期に始まったKids Jaycee(小中学生を基準)の対象でもある子ども達に目を向けると、子ども達の学ぶ環境は、長引いた休校の影響もあり多様化してきている現状があります。子ども達が自ら考え、課題を解決する能力が問われる中で、まずは親世代が多様化に対応し、国のそして地域の宝である子ども達の選択肢を増やす取り組みが必要です。

無限の可能性を秘めた柔軟な考えを持つYoung Jaycee世代、Kids Jaycee世代に対し、原体験を通じて自らがこれから何を成すべきであるかを考え、それに対して行動する機会を提供して頂きたいと思えます。無数にある情報を自らのフィルターを通して正しい情報に変換するスキルの習得は、近年のインフォデミックを抑えることにも繋がっていくはずです。変化を恐れずに。変化して初めて進化は始まります。

【足元が固まってこそ実る大義と会員拡大】

我々の活動や運動は、会社や家庭の理解のうえに成り立っていることを決して忘れてはなりません。あなたが会社を離れば、誰かがあなたの分も働いてくれています。あなたが家庭を離れば、奥さんやご主人が親や子どもの面倒をみてくれています。溢れんばかりのまちを想う気持ちも、会社や家庭という足元が固まっていなければ、絶対に波紋を拡げることはできません。経済基盤を整える時間や家族の幸福に費やす時間をしっかりと確保し、その上で会社や家族、知人にあなたの活動を、そして団体の運動を共感してもらうことが大切なのではないでしょうか。あなたがまちを想い、まちの困難や試練に立ち向かおうとする時、青年会議所は皆さんを必要とします。その時にあなたの夢を、想いを全力で発揮できるように準備を整えていて下さい。

また、会員拡大活動は年齢制限がある我々の団体においては必要不可欠です。如何なる時代背景であっても会員拡大活動は団体の維持、成長に欠かせない活動であり、何より志を同じくする同志の数が多ければ多いほど、そしてその同志が卒業後もひとつづくり活動や社会開発活動を続けることが、青年会議所の創立の根幹であるよりよい社会への

実現に繋がります。

しかしながら、活動の資金源である経済基盤が崩れてしまっているメンバーも近年残念ながら見受けられます。新規会員の拡大だけでなく、歯を食いしばって活動してくれている既存のメンバーが活動を継続し、途中退会による会員の減少を防ぐ取り組みも同時に行うことが必要です。

【英知を集約して、如何なる時代にも打ち勝つ】

マンパワーこそ我々の強みであるにも関わらず、「集うこと」さえ困難な今、我々は翼をもがれた状態とを感じるかもしれません。しかし我々は本当にマンパワーだけの組織でしょうか。幾多の困難を乗り越えてきた百戦錬磨のリーダー達が集まる青年会議所は唯一無二の団体ではないでしょうか。

福岡青年会議所には 1,400 名以上の特別会員、全国では 692 の青年会議所に約 36,000 名の会員が存在し、世界にはトリオ JC である JCI 釜山、姉妹 JC である JCI 香港シティ、JCI サウスサイゴンをはじめとして 117 ヶ国 162,000 名の志を同じくする仲間がいます。

また、日本青年会議所、九州地区協議会、そして福岡ブロックにも我々と同様にもがき苦しみながら、自らを奮い立たせ貪欲にチャレンジしている仲間が存在します。2021 年度は一人でも多くのメンバーに出向の機会に触れて頂き、出向先で多くの仲間と出会ってください。そしてそこで様々な状況下においても生き抜く力、術を身に着け、それを実社会においても実践できる Jaycee に、JC という学び舎を通してなりたいです。

【費用対効果とそうではないもの】

わざわざ集う、人よりも多く汗をかく美学も青年会議所にはありますが、これらの根本も考え直す岐路に我々は立っているのではないのでしょうか。文明が発展している現在、青年会議所としても会議体のあり方について考えていくことも必要です。Web による会議が中心に行われている今、何となく物足りない気持ちを抱き、簡素化され過ぎていくことに違和感を持っている人もいるかもしれません。費用対効果を考え効率化、簡素化すべきもの、非効率であってもわざわざ集い多くの汗をかくことで得られるメンバーシップの醸成、メンバーの成長といったものの重要性も認識しながら、バランスよく活動をしていくことが重要です。

またこれまでのように事業に協賛して下さる企業は減少することが予測されます。会費を払うのが苦しいメンバーも増えてくるでしょう。これまで以上に、如何に時代、人々が求める活動、運動を、費用を抑えたうえで展開するかが鍵になってきます。事業の大小

にこだわるのではなく、我々の活動や運動によって、たった一人にでも気づきを与えたり心が豊かになってもらえたりするような事業を作り出していきましょう。

【最後に】

新型コロナウイルスの感染拡大、それに伴う被害は想像を絶するものがあります。その影響は今もなお続いており、終わりが見えないこの状況下で不安な日々を過ごしているメンバーも数多くいることでしょう。しかし、我々は下を向くことや後ろを振り返ることに力を使っている時間はありません。青年会議所はこれからの未来を語る組織です。今、この世の中のために、仲間のために何ができるのか。その事だけを考え、我々は会社や家族の理解、協力のもと、ときには我慢を強いながらも、これまで汗を流し、時には涙を流してきたのです。こんな状況の今だからこそ、会社、家族、仲間のために一歩を踏み出そう。その一歩の幅は人それぞれで構わない。けれど誰よりも強く踏み出して、青年会議所での尊い1年を意味のあるものにしてほしい。きっとその一歩は、あなたの大切な人に、愛する福岡に、日本に、大きな勇気を与えるものとなり、いつしか一人ひとりの勇気が折り重なって、まばゆい希望の光となるはずです。その希望の光で世の中を新時代へと導いていく唯一無二の団体こそ、福岡青年会議所であり、そこに所属してくれているメンバーであると私は信じています。大人も子どももワクワクする新しい時代を共に築いていきましょう。



理事長
彌 登 義 明
President
Yoshiaki Mito



直前理事長
出 田 正 城
Immediate Past President
Masashiro Ideta



副理事長
橋 本 久 志
Executive Vice President
Hisashi Hashimoto



副理事長
蓑 毛 亮
Executive Vice President
Ryo Minomo



副理事長
古 市 剛
Executive Vice President
Tsuyoshi Furuichi



副理事長
前 川 裕 貴
Executive Vice President
Hiroki Maekawa



副理事長
西 嶋 聖
Executive Vice President
Akira Nishijima



専務理事
戸 嶋 太 一
Senior Executive Director
Taichi Tojima



監 事
井 川 陽 介
Auditor
Yosuke Ikawa



監 事
中 野 雄 将
Auditor
Kazumasa Nakano



法制顧問
多 賀 谷 兵 馬
General Legal Counsel
Hyouma Tagaya



法制顧問
山 口 剛 弘
General Legal Counsel
Takehiro Yamaguchi



財政顧問
高木 正太郎
Treasurer
Shotaro Takaki



財政顧問
松岡 将史
Treasurer
Shoji Matsuoka



事務局長
榎本 淳一
Secretary-General
Junichi Enomoto



常務理事
山野 晋
Managing Director
Susumu Yamano



常務理事
吉田 豊
Managing Director
Yutaka Yoshida



セクレタリー
伊東 健太郎
Secretary
Kentaro Ito



セクレタリー
倉掛 裕輔
Secretary
Yusuke Kurakake



セクレタリー
三苫 弘典
Secretary
Hironori Mitoma

MIRAI 交流発信特別委員会

委員会スローガン【MIRAIへの挑戦～第3章～】



委員長 中原 壮一郎
副委員長 中田 原義也
運営幹事 手島 勇気
会計幹事 小菅 良助
広報幹事 藤 夏子
拡大幹事 吉 戒祥太郎
佐伯 岳大明
千代 和明
永 露伸之介
中野 上俊彦
丸野 正利
山本 直史
籠 紀 昭

●基本方針

福岡市はこれまで、人口増加率やクルーズ船寄港数等、常に全国トップクラスにあり近年著しい発展を遂げてきました。さらには地元政財界や行政を中心に国際金融拠点の誘致にも動き出しています。今後、FUKUOKAがアジアのリーダー都市となるためには、九州をはじめアジアの経済を力強く牽引していくことが必要です。

しかし、2020年全世界の経済、生活を脅かし猛威を振った新型コロナウイルス（COVID-19）。この影響により、経済は大きな打撃を受け、海外からの渡航制限もあり、見通しの立たない状況ではあります。経済復興という課題は、福岡に限らず国内外においての最大のテーマであります。コロナ禍だからこそできること。青年だからこそ挑戦できること。目の前の経済復興は非常に大事です。それと同時にその先の経済成長も考えていかなければなりません。

これまで、福岡市が行ってきた天神ビッグバンをはじめ博多コネクティッドやウォーターフロントネクスト。これらの政策により街の魅力や価値が高まり発展をしてきました。アフターコロナ・Withコロナと言われるこれからの時代である今だからこそ新しいカタチのビジネスロールモデルを確立し、更に進化していかなければなりません。経済復興を短期的に考えると、インバウンド需要は大きな経済効果を見込めないかもしれませんが、50年後、100年後を見据えアジアのリーダー都市となっていくためにインバウンド政策は必要不可欠であります。

当委員会では、IR誘致をはじめとするインバウンドがもたらす可能性の調査研究を行い、2019年、2020年と福岡青年会議所が行ってきた運動を踏まえてMIRAIのFUKUOKAのあり方を発信して参ります。

そして、委員会メンバーには公開例会や事業を通じてMIRAIのまちのことを本気で考え多くを語らい、時間を共有することによって生まれる絆を深め、一生の友として付き合いのできる委員会運営を行って参ります。

●事業計画

◇IR（統合型リゾート）を含むインバウンドがもたらす可能性を調査・研究し、未来へとつながる事業の実施
 〈目的〉インバウンド政策が福岡にもたらす経済復興について広く発信をし、MIRAIの福岡の発展に寄与すること。
 〈方法〉有識者や各経済団体へのヒヤリングを行い、具体的なインバウンド政策を示す事業を実施する。

◇公開例会の実施（3月）
 〈目的〉インバウンド政策に対する対内・外の意識の醸成を行うこと。
 〈方法〉インバウンド政策に精通した有識者を講師に招き、インバウンドがもたらす経済への可能性を発信する。

◇会員拡大・研修に関する事項
 〈目的〉会員拡大においては、未来につないでいく事が出来ないという危機感を持ち、より良い活動を多くのメンバーと展開するための会員拡大を行う。研修に関しては、学びや出会いを通して多くの気づきを与え、「利他の精神」で行動できる仲間を育成する。
 〈方法〉会員全員が会員拡大の意識を持ち、効果的・効率的な情報発信を共有するため、毎月理事会前に拡大推進会議を実施し、各委員会の拡大幹事が推進役を担い新入会の促進を実施する。

◇非常災害時における支援に関する事項
 〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献する。
 〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。

委員会年間スケジュール

| | 上程スケジュール | 行 事 | 上程スケジュール | 行 事 |
|--------------|---|-------------------|----------|--|
| 2020年 11月 | | | 6月 | 福岡ブロック大会（大川） オールメンバーの集い ASPAC（台中） 香港シティJC周年 |
| 12月 | □討議□協議（3月度公開例会事業計画） | | 7月 | サマーコンファレンス MIRAI交流発信特別委員会事業実施 |
| 2021年 1月 | □討議□審議（3月度公開例会事業計画） | 京都会議 | 8月 | 九州地区大会（飯塚） |
| 2月 | □素案（MIRAI交流発信特別委員会事業計画） | 第3エリア合同例会 | 9月 | |
| 3月 | □討議□協議□協議□協議（MIRAI交流発信特別委員会事業計画） | 3月度公開例会実施 | 10月 | □討議□審議□協議□審議（MIRAI交流発信特別委員会事業報告） 全国大会（宇都宮） |
| 4月 | □討議□審議□協議□審議（MIRAI交流発信特別委員会事業計画） □討議□審議（3月度公開例会事業報告） | | 11月 | 世界会議（ヨハネスブルク） |
| 5月 | | 下関JC周年 広島定期交歓会 | 12月 | 卒業生を送る夕べ |

MIRAI ビジネス発信特別委員会

委員会スローガン【Change Challenge Chance】



委員長 金海安 州之
副委員長 竹野 恵 介
運営幹事 武田 哲 志
会計幹事 甲木 正 孝
広報幹事 吉弘 慎 一郎
拡大幹事 村上 瑶 二
安部 亮 大
佐伯 公 英
下山 内 友
武野 篤 志
中藤 崎 康 司
文元 隆 仁
古澤 正 博
諸永 典 彦

●基本方針

世界中が未曾有の危機に襲われた2020年。我がまち福岡も例外ではありませんでした。多くの産業が新型コロナウイルスで大きな打撃を受けており、今もなお苦しんでいます。だからこそ、この状況を変えていくべく、我々青年経済人は力強く前に突き進むことが望まれています。

福岡のまちは、政令指定都市の中で「人口増加数・増加率」「若者（10代・20代）の人口比率」ナンバーワンとなっており、成長のポテンシャルは高いと考えています。また、交通の利便性では、上海・東京まで90分とアクセスに優れた福岡空港を要しており、空港までのアクセス時間の短さはアジア13都市中1位となっています。さらに、地震リスクが非常に低く、東京圏との同時被災リスクが低いなど多くの魅力を有しています。

しかしながら、福岡市の国際競争力はどのようなものでしょうか。古来から日本におけるアジアの玄関口として栄え、グローバル化が進展してきた都市です。しかし、多国籍企業を中心に構成されるグローバルなシステムにおいて福岡市の存在感は薄いものと考えられます。それを現すかのように「GPCI」（世界の都市総合力ランキング）において福岡市は42位の位置にいます。また「GFCL」（国際金融センターランキング）では上位40センターにランキングされていない状況です。

このような状況を踏まえ、当委員会は新型コロナで受けた衝撃からの経済復興を図るべく短期的経済復興と国際金融拠点となるような中期的経済復興の2つの視点を軸に委員会運営をしていきます。

短期的経済復興は、相互に自由に三方良しのダイレクトマッチングが出来るような調査研究を行い発信していきます。中期的経済復興は、国際金融拠点誘致を始めとした政策の調査研究を行い、5年後の福岡のまちの発展につながる発信をしていきます。

そして、一生に一度の一年間を過ごす委員会のメンバーにJC活動をして良かったと思える1年間にします。FUKUOKAに新たな壮大なレールを描き、委員会メンバー全員で走り抜けていきます。

●事業計画

◇福岡市の産業を調査・研究し、個と個を結ぶことによる経済の発展につながる事業の実施

〈目的〉短期的経済復興と中期的経済復興に資する調査研究を行い、コロナ禍における経済発展に資する意識醸成を図る。

〈方法〉福岡市や各団体にヒアリングを行い福岡の産業について理解を深め、世界の地方中枢都市と日本の地方中枢都市の事例研究等を行い発信していく。

◇公開例会の実施

〈目的〉ビジネススキルやマーケットに対する理解力向上に努め、参加者の経営力育成を図る。

〈方法〉アフターコロナのマーケット環境を有識者にヒアリングし、これから役に立つビジネススキルを発信していく。

◇拡大について

〈目的〉会員拡大においては、未来につないでいく事が出来ないという危機感を持ち、より良い活動を多くのメンバーと展開するための会員拡大を行う。研修に関しては、学びや出会いを通して多くの気づきを与え、「利他の精神」で行動できる仲間を育成する。

〈方法〉会員全員が会員拡大の意識を持ち、効果的・効率的な情報発信を共有するため、毎月理事会前に拡大推進会議を実施し、各委員会の拡大幹事が推進役を担い新入会の促進を実施する。

◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献する。

〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。

委員会年間スケジュール

| | 上程スケジュール | 行 事 | | 上程スケジュール | 行 事 |
|-------|--------------------|-------------------|-----|---------------------|--|
| 2020年 | | | | | |
| 11月 | | | 6月 | □討議□審議（4月度公開例会事業報告） | 福岡ブロック大会（大川オールメンバーの集い）ASPAC（台中）香港シティJC周年 |
| 12月 | | | 7月 | | サマーコンファレンス |
| 2021年 | | | | | |
| 1月 | □討議□協議（4月度公開例会計画） | 京都会議 | 8月 | | MIRAIビジネス発信特別委員会事業実施九州地区大会（飯塚） |
| 2月 | □討議□審議（4月度公開例会計画） | 第3エリア合同例会 | 9月 | | |
| 3月 | | | 10月 | □討議□審議□協議□審議（事業報告） | 全国大会（宇都宮） |
| 4月 | □討議□協議□協議□協議（事業計画） | 4月度公開例会実施 | 11月 | | 世界会議（ヨハネスブルク） |
| 5月 | □討議□審議□協議□審議（事業計画） | 下関JC周年 広島定期交歓会 | 12月 | | 卒業生を送る夕べ |



室 長 年 岡 裕 也

●基本方針

福岡青年会議所は、戦後の復興を進めるために発足し、すでに68年の歳月を過ごしてきました。その過程において福岡の街を牽引する多くのリーダーを輩出し、街の形成に多大な貢献をすることができました。それと共に、福岡青年会議所の組織発展も成し遂げることに成功し特別会員の数も1500名を超える数となりました。

しかしながら、2020年度に急拡大しましたCOVID-19の影響により人々の生活様式が大きく変貌を遂げています。各地会員会議所のメンバーの減少に歯止めがかからない中での活動自粛による更なる会員の減少。本年は未曾有の経済危機に瀕した状況をネガティブに捉えることなく、JAYCEEにおいて大きな変革のチャンスととらえて活動していきます。

人材育成室では、未来のあるJAYCEEに対しピンチをチャンスに変えることのできる研修事業を行います。また、国形成の根幹でもあります青少年に対し、情報社会の中で適切な情報収集能力の向上、そして保護者を巻き込んだ親子ともどもが『成長・学び・気づき』を得ることのできる活動を展開していきます。

福岡青年会議所がやはり地域の活性化には必要だと感じてもらう為にも、人の成長敷いては自己の成長につながることを念頭に一年間精進致します。

会 員 育 成 委 員 会

委員会スローガン【感謝の想いをもって利他の心呼び込む】



委員長 山崎大士
 副委員長 吉村稔
 運営幹事 松岡慎治
 会計幹事 本竹真徳
 広報幹事 菅原是道
 拡大幹事 川添裕士
 有光麻美
 岡部英信
 坂本満康
 富田雄詞
 林美奈樹
 本村浩司
 本村万里大

●基本方針

JCには、青年が集まって自己啓発・修練を行なう場があり、培われた力を用いて地域社会に奉仕する。そして、その奉仕・修練を支える力として、会員全員、同士を貫く友情があります。一方で、我々の活動や運動は、会社や家庭の理解のうえに成り立っています。基盤となる経済を整え、家族の幸福に費やす時間を確保し、感謝の想いをもって活動することで、まちの困難や試練に立ち向かうことが必要とされています。

福岡JCは68年の歩みの中で、時代の変化に柔軟に対応できる会員の育成である人づくりを通して、福岡のまちづくりへと貢献してきた歴史があります。その人づくりの中核である会員の育成こそが、「謙虚と素直」からなる創造力を養う場として位置づけられました。希望とともに、光満ち溢れる新時代へと人々を導いていくという強い責任と覚悟を持ち、率先して行動できるJAYCEEの早期育成が不可欠です。

本年度会員育成委員会は、会員の規範となり変化を恐れず挑戦し続けます。FUKUOKA NEXTをはじめとする様々な取り組みに目を向け、複数年で物事をとらえ波及効果を追求し、果敢に挑戦する創造力の発展に寄与します。

また、仮入会者への指導・研修において、学びや出会いを通して多くの気づきから感恩報酬の心を培い、「利他の精神」で行動するJAYCEEとしての心構えを体感できるオリエンテーションを実施します。新入会同期会事業においては、同期・兄弟同期の結束の強化を動機付けとし、時代の変化に対して柔軟に対応した事業運営を実体験してもらいます。やすらぎ荘事業に関しては、やすらぎ荘・九州大学・福岡JCの3者間で協議・連携を行い、新たな時代へ導く事業フレームを構築します。8月に実施する通常例会においては、委員会の垣根を越えて、会員同士のつながりをより強くし、希望をもたらす変革の起点となる企画を行います。

会社・家族・仲間のために、変化を恐れず挑戦することが進化への一歩となり、その積み重ねこそが未来を創造できるJAYCEEへと成長させます。会員育成委員会が委員会運営・所務において、「HOPE to NEWERA」となる人づくりを通して、誰よりも率先して行動してまいります。その使命感がLOMIに勇気を与え、LOMを動かす原動力となり、新たな価値を創造していただけるように、委員会一丸となって、希望の光で新たな時代へと導いていきます。

●事業計画

- ◇福岡JCの歴史、および福岡の歴史、地域特性の調査・研究
 - 〈目的〉複数年で物事をとらえ波及効果を追求し果敢に挑戦する創造力の発展に寄与する。
 - 〈方法〉FUKUOKA NEXTをはじめとする様々な取り組みに目を向け、行政や企業では手が届かないところ、学校や市民が求めているところを調査・研究する。
- ◇仮入会者への指導・研修に関する事項
 - 〈目的〉感恩報酬の心を培い「利他の精神」で行動するJAYCEEの自覚を早期に養い、新たな時代へ導く強い責任と覚悟で率先して行動する仲間を輩出する。
 - 〈方法〉オリエンテーションでは、学びや出会いを通して多くの気づきを与え、JCの三信条（修練・奉仕・友情）を経験させ、正会員との交流を通してJCの伝統や精神・魅力を伝える。
- ◇新入会者同期会事業に関する事項
 - 〈目的〉新入会がJC事業の本質を学ぶとともに、同期の友情と結束を強くする。
 - 〈方法〉会員育成委員会と一年前に入会した同期会の指導の下、事業構築のルールを学び自らが考え、時代の変化に対して柔軟に対応した事業の企画・実施をする。
- ◇やすらぎ荘に関する事項
 - 〈目的〉やすらぎ荘事業のあり方を見直し、新たな社会福祉・ボランティア活動を考え、利他の精神を学ぶ場とする。
 - 〈方法〉新入会者3同期会を中心に、やすらぎ荘・九州大学・福岡JCの3者間で協議・連携を行い、これまでの型にはまることない、新たな時代へ導く事業フレームを構築する。
- ◇会員拡大に関する事項
 - 〈目的〉未来につないでいくことが出来ないという危機感を持ち、より良い活動を多くのメンバーと展開するための会員拡大を行う。
 - 〈方法〉会員全員が会員拡大の意識を持ち、効果的・効率的な情報発信を共有するため、毎月理事会前に拡大推進会議を実施し、各委員会の拡大幹事が推進役を担い新入会の促進を実施する。
- ◇通常例会の実施（8月）
 - 〈目的〉未来を語る組織として、地域社会や仲間の抱える課題をLOM全体で調査・研究し、希望をもたらす変革の起点とする。
 - 〈方法〉持続可能なテーマを用意し、委員会の垣根を越えて、会員同士のつながりがより強くなるような企画を行う。
- ◇非常災害時における支援に関する事項
 - 〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献する。
 - 〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。

委員会年間スケジュール

| | 上程スケジュール | 行 事 | | 上程スケジュール | 行 事 |
|-------|---|-----------------------------------|-----|---|---|
| 2020年 | | | | | |
| 11月 | □討議□協議（前期オリエンテーション事業計画） | | 6月 | □討議□審議（8月度通常例会事業計画） | 福岡ブロック大会（大川） オールマンバーの集い ASPAC（台中） 香港シテイJC周年 中期オリエンテーション② |
| 12月 | □討議□審議（前期オリエンテーション事業計画） | 入会審査（前期） | 7月 | □討議□協議（後期オリエンテーション事業計画） □討議□協議□協議□協議（やすらぎ荘事業計画） | サマーコンファレンス 中期オリエンテーション③ ところてん事業：前期 |
| 2021年 | | | | | |
| 1月 | □討議□討議□討議□討議（ところてん事業計画：前年度後期） | 京都会議 前期オリエンテーション① | 8月 | □討議□審議（中期オリエンテーション事業報告） □討議□審議（後期オリエンテーション事業計画） □討議□審議□協議□審議（やすらぎ荘事業計画） □討議□討議□討議□討議（ところてん事業報告：前期） | 九州地区大会（飯塚） 入会審査（後期） 8月度通常例会 |
| 2月 | | 第3エリア合同例会 前期オリエンテーション② | 9月 | □討議□審議（8月度通常例会事業報告） □討議□討議□討議□討議（ところてん事業計画：中期） | 後期オリエンテーション① |
| 3月 | □討議□協議（中期オリエンテーション事業計画） | 前期オリエンテーション③ ところてん事業：前年度後期 | 10月 | □討議□審議□協議□審議（やすらぎ荘事業報告） | 全国大会（宇都宮） 後期オリエンテーション② やすらぎ荘事業 |
| 4月 | □討議□審議（前期オリエンテーション事業報告） □討議□審議（中期オリエンテーション事業計画） □討議□討議□討議□討議（ところてん事業報告：前年度後期） | 入会審査（中期） | 11月 | | 世界会議（ヨハネスブルク） 後期オリエンテーション③ ところてん事業：中期 |
| 5月 | □討議□協議（8月度通常例会事業計画） □討議□討議□討議□討議（ところてん事業計画：前期） | 下関JC周年 広島定期交歓会 中期オリエンテーション④ | 12月 | □討議□審議（後期オリエンテーション事業報告） □討議□討議□討議□討議（ところてん事業報告：中期） | 入会審査（次年度前期） 卒業生を送る夕べ |

Young Jaycee 育成委員会

委員会スローガン【進化】



委員長 伊藤 慎 吾
 副委員長 岩下 優典
 運営幹事 辻 亮一
 会計幹事 日本 野修治
 広報幹事 日本 間晃平
 拡大幹事 平松 雅敏
 泉 雄介
 上原 慶介
 尾花 一樹
 小泉 太裕
 古賀 健太郎
 鈴木 愛也
 武田 進也
 谷川 和
 本園 大

●基本方針

インターネットの普及により、「人間関係の希薄化」が叫ばれる現代において、若者に共通していえることは「コミュニケーション能力の低下」ではないでしょうか。

現代社会において、スマートフォンひとつあれば、人と接することもなくビジネスにおける商談すらも成立してしまう今日において、人と人が対面でコミュニケーションを取ることさえも、時間効率が悪いとも言われてしまう。便利な世の中になっていくことは、その便利を実現しようと世の中のために動いていた人がいることも事実です。

しかしながら、その便利さに感謝の想いを持ちつつも、人が生きていく上で重要な基本要素こそ、私はコミュニケーション能力だと思っています。人が人と生きるこの時代だからこそ、人の想いや温もりを感じることができるのは、対面でのコミュニケーションに他なりません。

だからこそ、Young Jaycee育成委員会として、大学生を中心とするYoung Jaycee第三期生については、「対面」と「効率」を持って、昔ながらの変えてはいけない大切なモノと変化していくコトを、融合させた事業構築を行って参ります。今後も続くコロナウイルスの脅威に、感染防止策を講じて順応していく力強さをYoung Jaycee第三期生とともに、新しい時代に打ち出していきます。

そして、膨大な量の情報が錯綜する現代社会において、得られた情報が、どのような意図、意味を持って発信されているかを読み取り、自分の意見も含めて発信することができる能力こそ、若者だけでなく我々にも必要な要素であると考えています。このメディアリテラシーの重要性の発信とともに、Young Jaycee第三期生と委員会メンバーの「融合」こそが、委員会メンバーの新しい気づきや成長のきっかけとなると確信しています。

どんなに時代でも「人」と「人」が接することは不変であり、なくなることはありません。だからこそ、365日という限られた時間を無駄にすることなく、委員会メンバーと共に切磋琢磨しながら、互いが互いのために行動し、「何をしたのか」ではなく「誰としたのか」という「人」を感じて貰い、今後の「JCI福岡」の発展に寄与するメンバーの輩出を行って参ります。

●事業計画

◇能動的市民 (Young Jaycee) の発掘と育成に関する事業の実施。

〈目的〉自ら考え行動するYoung Jayceeの発掘と育成。

〈方法〉若者の現状と課題を調査・研究し、FUKUOKAの発展に繋がる人財育成の事業実施。

通常例会の実施 (11月 Kids Jaycee育成委員会合同開催)

〈目的〉インターネット社会におけるメディアリテラシーの重要性の発信。

〈方法〉メディアリテラシーについて調査研究を行い、子どもだけでなく親世代にも気づきや学びを与えることができる例会をKids Jaycee育成委員会と共同開催する。

◇香港シティJCに関する事項の補助

〈目的〉香港JCとの関係性向上の補助及び更なるFUKUOKAの魅力の発信。

〈方法〉互いの周年事業へ参加することで、更なる友情や関係性の構築を行う。

◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉会員拡大においては、未来についでいく事が出来ないという危機感を持ち、より良い活動を多くのメンバーと展開するための会員拡大を行う。研修に関しては、学びや出会いを通して多くの気づきを与え、「利他の精神」で行動できる仲間を育成する。

〈方法〉会員全員が会員拡大の意識を持ち、効果的・効率的な情報発信を共有するため、毎月理事会前に拡大推進会議を実施し、各委員会の拡大幹事が推進役を担い新入会の促進を実施する。

◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献する。

〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。

委員会年間スケジュール

| | 上程スケジュール | 行 事 | | 上程スケジュール | 行 事 |
|-------|---------------------|-------------------|-----|--|--|
| 2020年 | | | | | |
| 11月 | | | 6月 | | 福岡ブロック大会 (大川) オールメンバーの集い ASPAC (台中) 香港シティJC周年 |
| 12月 | | | 7月 | □討議□協議 (11月度通常例会計画) | サマーコンファレンス Young Jaycee育成委員会事業実施 |
| 2021年 | | | | | |
| 1月 | | 京都会議 | 8月 | □討議□審議 (11月度通常例会計画) □討議□審議□協議□審議 (事業報告) | 九州地区大会 (飯塚) |
| 2月 | | 第3エリア合同例会 | 9月 | | |
| 3月 | | | 10月 | | 全国大会 (宇都宮) |
| 4月 | □討議□協議□協議□協議 (事業計画) | | 11月 | | 世界会議 (ヨハネスブルグ) 11月度通常例会実施 |
| 5月 | □討議□審議□協議□審議 (事業計画) | 下関JC周年 広島定期交歓会 | 12月 | □討議□審議 (11月度通常例会事業報告) | 卒業生を送る夕べ |

Kids Jaycee 育成委員会

委員会スローガン【小さな一歩が未来を創る！】



委員長 古田 真幸
副委員長 立部 真康
運営幹事 右近 将司
会計幹事 田中 隆志
広報幹事 針尾 洋平
拡大幹事 寺内 亨忠
岡本 健人
北崎 陽介
東堂 美由紀
中村 正史
成富 崇智
平野 正紀
藤野 哲司
安河内 剛基
吉岡 康基

●基本方針

近年、少子化、核家族化、都市化、情報化、国際化など、我が国経済社会の急激な変化を受けて、人々の価値観や生活様式が多様化している一方で、社会の傾向としては、人間関係の希薄化、地域社会のコミュニティー意識の衰退が問題となっています。子ども達を取り巻く環境も、インターネット、携帯電話の普及に伴い、必要な情報をいつでも獲得することができ、誰かと容易に繋がることができるようになりました。利便性が進む一方で、犯罪の低年齢化は深刻な問題となっており、その要因として一方的な情報を正しい情報と判断してしまうことで、考える能力が低下していることがあげられます。また、年々減少していく子ども人口も深刻な問題であります。子ども達の生活様式や人口が減少していることは、決して喜ばしいことではありませんが、一人ひとりと向き合った教育をするチャンスと捉えることもできます。地域、未来の宝でもある子ども達に、自ら考え行動していく大切さを知るきっかけを与えることが、未来のFUKUOKAのまちを豊かにしていきます。

当委員会では、3年目となるキッズJAYCEEを継承、進化させ第3期生の募集を行います。JAYCEEの3信条でもある、友情、奉仕、修練を子ども達に体感してもらうことで、利便性の高い時代でも人との繋がりの大切さを学んで欲しいと思います。また、我々親世代にも子どもが未知なる事に挑戦する姿を見ることで、改めて子ども達の可能性を広げていくという視野を持っていただきたいと思います。

今までの価値観や経験を大切にしながらも、未知なる事に挑戦し、新たな成長の機会を一つでも得ることができると一年にしていきたいと思えます。共通の目標に向かって、苦楽を共にすることで真の友情を芽生えさせ、一年後、必ず委員会メンバーの“生涯の友”が生まれる委員会を創っていきます。

●事業計画

◇能動的市民 (Kids Jaycee) の発掘と育成に関する事業の実施

＜目的＞ 誰かの為に自発的に動くことができる子どもの育成。

＜方法＞ 子どもたちを取り巻く環境を調査、研究し、自ら発信していける人間となるためのきっかけを創る事業を実施する。

◇通常例会の実施 (11月 Young Jaycee育成委員会合同開催)

＜目的＞ インターネット社会におけるメディアリテラシーの重要性の発信。

＜方法＞ メディアリテラシーについて調査研究を行い、子どもだけでなく親世代にも気づきや学びを与えることができる例会をYoung Jaycee育成委員会と共同開催する。

◇サウスサイゴンJCに関する事項の補助

＜目的＞ サウスサイゴンJCとの関係を深め、互いの文化を知ることで、国際感覚を身に付ける。

＜方法＞ 担当室長と連携し、双方の周年事業への参加を通して交流を深める。

◇会員拡大・研修に関する事項

＜目的＞ 会員拡大においては、未来につないでいく事が出来ないという危機感を持ち、より良い活動を多くのメンバーと展開するための会員拡大を行う。研修に関しては、学びや出会いを通して多くの気づきを与え、「利他の精神」で行動できる仲間を育成する。

＜方法＞ 会員全員が会員拡大の意識を持ち、効果的・効率的な情報発信を共有するため、毎月理事会前に拡大推進会議を実施し、各委員会の拡大幹事が推進役を担い新入会の促進を実施する。

◇非常災害時における支援に関する事項

＜目的＞ 非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献する。

＜方法＞ 日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。

委員会年間スケジュール

| | 上程スケジュール | 行 事 | | 上程スケジュール | 行 事 |
|-------|--------------------|-------------------|-----|----------------------|--|
| 2020年 | | | | | |
| 11月 | | | 6月 | | 福岡ブロック大会(大川) オールメンバーの集い ASPAC(台中) 香港シティJC周年 |
| 12月 | | | 7月 | □討議□協議(11月度通常例会事業計画) | サマーコンファレンス Kids Jaycee育成委員会事業実施 |
| 2021年 | | | | | |
| 1月 | | 京都会議 | 8月 | □討議□審議(11月度通常例会事業計画) | 九州地区大会(飯塚) |
| 2月 | □討議□協議□協議□協議(事業計画) | 第3エリア合同例会 | 9月 | | |
| 3月 | □討議□審議□協議□審議(事業計画) | | 10月 | □討議□審議□協議□審議(事業報告) | サウスサイゴンJC周年 全国大会(宇都宮) |
| 4月 | | | 11月 | | 世界会議(ヨハネスブルク) 11月度通常例会実施 |
| 5月 | | 下関JC周年 広島定期交歓会 | 12月 | □討議□審議(11月度通常例会事業報告) | 卒業生を送る夕べ |



室長 水崎 浩二

●基本方針

福岡の文化とは何か。

芸術文化、伝統文化、芸能文化など、華やかなものをイメージする一方で、産業、食、言語、教育、スポーツ、テクノロジーといったものも文化と言えるのではないのでしょうか。福岡はいにしえより様々な異文化を取り入れ、人々の生活や心を豊かにし、その活力とともに発展してきました。

FUKUOKA文化室では、時代背景や価値観の多様化による豊かさの変化によって合理化が進み、人間関係や地域社会のつながりが希薄になりつつある今、改めて先人たちが紡いできた「福岡」を知るとともに、「FUKUOKA」の新しい価値の醸成を目指して参ります。

Made in FUKUOKA発信委員会とFUKUOKA ART発信委員会が生み出すアクションを、地元はもとより国内外に発信することで、福岡に住み暮らす人々がより確かな郷土愛を感じるとともに、より豊かな社会の実現に寄与する運動となるよう力を尽くして参ります。

Made in FUKUOKA発信委員会

委員会スローガン【Think different】



委員長 尾本 勝 征
副委員長 田崎 麗一 朗
運営幹事 山本 憲 司
会計幹事 木塚 勝 也
広報幹事 近永 征 也
拡大幹事 春野 英 理
青 山 零 光
川 口 一 寿
城 戸 裕 之
坂 田 光 生
首 藤 泰 治
中 村 幸 晶
古 野 一 敦
保 利 一 敦
松 田 敦 朗

●基本方針

日本の文化芸術は少子高齢化やグローバル化、情報通信技術の進展など、社会が大きく変化する中で、市民や社会の要請に対応し、教育、福祉、国際交流、観光、産業、まちづくり等の各関連分野との連携を図りながら文化芸術の振興を推進することが求められています。

福岡市は令和元年に福岡市文化芸術振興計画を策定し、「市民生活の質の向上に向けた課題」、「都市の成長に向けた課題」、「文化芸術を担い支える環境・仕組みの課題」の3つの視点から政策課題を抽出し、「文化芸術による、元気で、多彩な人々が集う街を目指して」を基本目標に、まちづくりに取り組んでいます。

福岡はこれまでの歴史が示すように様々な異文化を取り入れ、新たな文化を生み出すことで心を豊かにし、人々の生活やまちの発展につなげてきました。しかし、現代においては、価値観の多様化によって豊かさが変化し、ひと・モノ・コトのつながりが希薄になる中で福岡の魅力が形骸化してきています。多種多様な人々が魅力を感じ、文化を身近に感じる心豊かな社会を実現するためには、あらためて福岡を知り、新たな価値を生み出して魅力あるFUKUOKAを時代に即した新たなカタチで発信することが必要です。

当委員会は、福岡の歴史・伝統やクリエイティブ関連産業（デジタルコンテンツ・ファッション・デザイン・映画・音楽等）の調査研究を行い、様々な文化を捉え直し、文化と文化の折り重なりによって起こる新たな変化を「Made in FUKUOKA」として広く発信します。Made in FUKUOKAが織り成すアクションで、多種多様な人々の目を引き、FUKUOKAの魅力を感じてもらうとともに、心豊かに感じるまちづくりへの機運を高めます。そして、委員会運営を通して、メンバー全員で課題に向き合い、助け合うことで成長し、深まった絆により生涯の友となれる委員会カルチャーを築き上げ、一人ひとりがひとづくり・まちづくりのムーヴメントを起こせる人財として、未来を担うJAYCEEを育成します。

●事業計画

◇FUKUOKAの歴史、伝統、文化を調査・研究し、発信する事業の実施

〈目的〉FUKUOKAの文化を広く発信し、魅力を感じてもらうとともに心豊かに感じるまちづくりへの機運を高める。

〈方法〉福岡の歴史、伝統、文化を調査・研究し、魅力的なFUKUOKAを広く伝える。

◇公開例会の実施(5月 FUKUOKA ART発信委員会合同開催)

〈目的〉福岡の文化の魅力と知識を広く発信すること。

〈方法〉福岡の文化（歴史、伝統、芸術、才能、文化等）に精通した有識者を講師としてお招きし、福岡の文化に関する魅力についての講演。

◇トリオ会議に関する事項の補助

〈目的〉これまで育んできた下関・釜山青年会議所との友情を途切れることなく継承していく。

〈方法〉各々が地域社会のために率先して行動する機会を共有することで、互いの成長を促し高め合う相乗効果を生み出す。

◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉会員拡大においては、未来につないでいく事が出来ないという危機感を持ち、より良い活動を多くのメンバーと展開するための会員拡大を行う。研修に関しては、学びや出会いを通して多くの気づきを与え、「利他の精神」で行動できる仲間を育成する。

〈方法〉会員全員が会員拡大の意識を持ち、効果的・効率的な情報発信を共有するため、毎月理事会前に拡大推進会議を実施し、各委員会の拡大幹事が推進役を担い新入会の促進を実施する。

◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献する。

〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。

委員会年間スケジュール

| | 上程スケジュール | 行 事 | | 上程スケジュール | 行 事 |
|-------|---|--------------------------------|-----|--------------------|--|
| 2020年 | | | | | |
| 11月 | | | 6月 | □討議□審議(5月度公開例会報告) | トリオ会議 福岡ブロック大会(大川) オールメンバーの集い ASPAC(台中) 香港シティJC周年 |
| 12月 | | | 7月 | | Made in FUKUOKA発信委員会事業実施 サマーコンファレンス |
| 2021年 | | | | | |
| 1月 | □討議□協議(5月度公開例会計画) | 京都會議 | 8月 | □討議□審議□協議□審議(事業報告) | 九州地区大会(飯塚) |
| 2月 | □討議□審議(5月度公開例会計画) □討議□協議□協議□協議(事業計画) | 第3エリア合同例会 | 9月 | | |
| 3月 | □討議□審議□協議□審議(事業計画) | | 10月 | | 全国大会(宇都宮) |
| 4月 | | | 11月 | | 世界会議(ヨハネスブルク) |
| 5月 | | 5月度公開例会実施 下関JC周年 広島定期交歓会 | 12月 | | 卒業生を送る夕べ |

FUKUOKA ART 発信委員会

委員会スローガン【Stand By You】



委員長 柳 洋 章
副委員長 中之 蘭 伸
運営幹事 小 柳 佑 貴
会計幹事 後 藤 雄 治
広報幹事 千 種 祐 香
拡大幹事 山 田 一 貴
石 川 眞 弥
上 田 久 紀
熊 谷 平 助
下 川 浩 平
新 家 正 久
武 本 一 利
野 満 圭 介
古 川 主 税
横 山 弘 之

●基本方針

現在、福岡市では、音楽、芸術、演劇、舞踊などの分野で活発な文化芸術活動が展開されています。また、テクノロジーやデジタル、デザインやファッションなどのクリエイティブな分野でも、アイデア溢れる若者と企業や団体が手を取り合い、新たなイノベーションが生まれ始めています。

これは行政のリーダーシップによる革新的な取り組みと、福岡のまちを拠点に活躍する若者達の発想力と行動力の賜物であります。

そんな恵まれた環境下にいる私たち福岡JCは、福岡に受け継がれてきた芸術文化をより深く調査研究し、魅力を再発見することで、心を豊かにする文化の源流を辿り、文化の「継承」と「革新」の好循環を生み出し最大限に活かして参ります。

当委員会は、「ART」という委員会名のとおり「自由な発想」で、メンバー全員が成長の「きざし」を感じることが出来る委員会の運営及び指導を行ってまいります。私たちの活動や運動を、「ART」を通してFUKUOKAへ、全国へ、世界へ、「未来へ」と広く発信していきます。

自分の出来ることをメンバーや、地域のために進んでやる。JCの中だけで完結しない、心に余裕を持ちメンバーが機会に飛び込めるよう、できることではなく、やりたいことを形にし、自分達がなすべきことに挑戦していけるように、誰よりもメンバーのことを考え、信じ、巻き込み委員会メンバー一人ひとりがあなたに出会えてよかったと言い合える一生涯の仲間を委員会で育てていきます。

●事業計画

◇FUKUOKAの歴史、芸術、才能を調査・研究・発掘し、発信する事業の実施

〈目的〉FUKUOKAの文化を広く発信し、魅力を感じてもらおうとともに心豊かに感じるまちづくりへの機運を高める。

〈方法〉福岡の歴史、芸術、才能を調査・研究し、魅力的なFUKUOKAをARTを通し広く伝える。

◇公開例会の実施(5月 Made in FUKUOKA発信委員会合同開催)

〈目的〉福岡の文化の魅力と知識を広く発信すること。

〈方法〉福岡の文化(歴史、伝統、芸術、才能、文化等)に精通した有識者を講師としてお招きし、福岡の文化に関する魅力についての講演。

◇トリオ会議に関する事項の補助

〈目的〉これまで育んできた下関・釜山青年会議所との友情を途切れることなく継承していく。

〈方法〉各々が地域社会のために率先して行動する機会を共有することで、互いの成長を促し高め合う相乗効果を生み出す。

◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉会員拡大においては、未来につないでいく事が出来ないという危機感を持ち、より良い活動を多くのメンバーと展開するための会員拡大を行う。研修に関しては、学びや出会いを通して多くの気づきを与え、「利他の精神」で行動できる仲間を育成する。

〈方法〉会員全員が会員拡大の意識を持ち、効果的・効率的な情報発信を共有するため、毎月理事会前に拡大推進会議を実施し、各委員会の拡大幹事が推進役を担い新入会の促進を実施する。

◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献する。

〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。

委員会年間スケジュール

| | 上程スケジュール | 行 事 | | 上程スケジュール | 行 事 |
|-------|--------------------|----------------------------------|-----|--------------------|--|
| 2020年 | | | | | |
| 11月 | | | 6月 | □討議□審議(5月度公開例会報告) | トリオ会議 福岡ブロック大会(大川) オールメンバーの集い ASPAC(台中) 香港シティJC周年 |
| 12月 | | | 7月 | | サマーコンファレンス |
| 2021年 | | | | | |
| 1月 | □討議□協議(5月度公開例会計画) | 京都会議 | 8月 | | 九州地区大会(飯塚) FUKUOKA ART発信委員会事業実施 |
| 2月 | □討議□審議(5月度公開例会計画) | 第3エリア合同例会 | 9月 | □討議□審議□協議□審議(事業報告) | |
| 3月 | □討議□協議□協議□協議(事業計画) | | 10月 | | 全国大会(宇都宮) |
| 4月 | □討議□審議□協議□審議(事業計画) | | 11月 | | 世界会議(ヨハネスブルク) |
| 5月 | | 5月度公開例会実施 下関JC周年 広島JC定期交歓会 | 12月 | | 卒業生を送る夕べ |



室 長 加 地 大 希

●基本方針

これまで当たり前で過ごしてきた日常が大きく変化した2020年。誰もが不安で混沌とした空気が蔓延し、今までの価値観が通用しない、新たな変革を迎えざるを得ない時代になりました。こんな時代だからこそ、福岡青年会議所の「創始の精神」を胸に、青年として何を成すべきかを明確にして、行動していくことが求められています。

本年度「メンバーシップ推進室」では、この絶体絶命のピンチをチャンスと捉え、前向きに活動を推し進め、2023年に迎える福岡青年会議所創立70周年に向けて、一人ひとりが力強く前進するための基礎となる1年にしてまいります。そのためにも、パートナーシップを持つ団体との連携を図り、まちに人に共感の連鎖を生みだし、会員拡大に繋がります。そして、先輩やメンバー同士の絆をより強固なものにするために、実りある交流の場を提供いたします。未知の可能性を切り開く、未来を照らす光となるよう邁進してまいります。

会 員 拡 大 推 進 委 員 会

委員会スローガン【This is JC ～変わらないために変わり続けること～】

●基本方針

福岡JC68年の歴史の中で、時代が大きく変わる時、私たちが住むこのまちには福岡JCの存在がありました。しかし、昨年の新型コロナウイルス蔓延という未曾有の事態において、福岡の経済は疲弊し、福岡JCでも活動自粛を余儀なくされ、まちへの存在意義を示していくには厳しい状況にあります。だからこそ、今まで引き継がれてきた「創始の精神」を胸に、この時代に合った我々青年にしかできない活動をしていく必要があります。

まちにJAYCEEが多ければ多いほど、まちのために動き、誰かのために動く仲間がどんどん増え、時代が大きく変化しても新しいまちづくりに取り組むことができます。そのためにも、委員会だけでなくLOMはもちろんシニアメンバーをも巻き込み、一枚岩となり会員拡大の推進をすることが不可欠です。また、JCの強さである先輩諸兄との友情を大切に、シニアメンバーとの交流の機会を活かし、68年脈々と受け継がれてきた歴史を今一度OBと現役全員で振り返りJCそしてJAYCEEの必要性を一人ひとりが強く認識しなければなりません。さらに、今までの拡大方法だけでなく、外部団体や地域貢献活動団体との連携を通して、まちに人に共感の連鎖を生みだし、JCへ自らが入会を志願するようなニューノーマルな拡大推進をします。

最後に、会員拡大推進委員会では、自らが目標意識をもち、メンバーを巻き込みながらアクティブシティズンに変えていき、人と人のつながりの大切さ、目標を達成した感動を分かちあい、一生涯付き合える仲間となれる委員会運営を実践していきます。

●事業計画

◇会員拡大の推進

〈目的〉未来につないでいく事が出来ないという危機感を持ち、より良い活動を多くのメンバーと展開するための会員拡大を行う。

〈方法〉会員全員が会員拡大の意識を持ち、効果的・効率的な情報発信を共有するため、毎月理事会前に拡大推進会議を実施し、各委員会の拡大幹事が推進役を担い新入会の促進を実施する。

◇オールメンバーの集いの実施

〈目的〉シニアと現役がお祝いをするとともに、より多くの交流を深める機会を創出する。

〈方法〉コロナ禍の中、昨年中止になったシニアとの交流の流れを絶やさぬよう、事業や交流の場を再検証し、交流の新しい手法を創り、実行できる機会を創る。

◇拡大例会の実施(10月)

〈目的〉1年間の中での各委員会の事業の総括をする場面をつくり拡大対象者へ参加してもらい福岡JCの活動を身近に感じてもらう。

〈方法〉各委員会と連携をとり、福岡JCから発信できるものを創り上げ、拡大候補者リストをいかし例会を実行する。

◇じゃがいもクラブの設営・運営

〈目的〉シニアメンバーと現役メンバーが共通の趣味を通じて交流を深めること。

〈方法〉会長、キャンプテンと連携し、会の運営が円滑に進むようにサポートする。

◇シニアクラブに関する事項

〈目的〉シニア総会開催の補助をし、本会の中で前年度の会計報告ならびに本年度の体制をお伝えするとともに交流をとる。また福岡JC発展のために拡大の依頼をする。

〈方法〉シニア会長、専務理事、事務局、55年生とも連携をとり、入会の挨拶と還暦のお祝いの設営をおこなう。

◇研修に関する事項

〈目的〉学びや出会いを通して多くの気づきを与え、「利他の精神」で行動できる仲間を育成する。

〈方法〉委員会訪問や事業を通して、研修委員会の意識を持ち、新たな時代へ導く強い責任と覚悟で接していく。

◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉自然災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献する。

〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。



委員長 黒川友成
副委員長 親川広志
運営幹事 小林大介
会計幹事 山口竜之介
広報幹事 田中海人
拡大幹事 河野将人
阿比留真平
池田光彦
石田潔典
川嶋健太郎
隈本大里
松南枝
村山真人

委員会年間スケジュール

| | 上程スケジュール | 行 事 | 上程スケジュール | 行 事 |
|--------------|-------------------------|---------------------|----------|---|
| 2020年 11月 | | | 6月 | 福岡ブロック大会(大川) オールメンバー ASPAC(台中) 香港シティJC周年 じゃがいもクラブ |
| 12月 | | | 7月 | □討議□協議□協議□協議(拡大例会計画) サマーコンファレンス |
| 2021年 1月 | | 京都会議 | 8月 | □討議□審議□協議□審議(拡大例会計画) □討議□審議□協議□審議(オールメンバー報告) 九州地区大会(飯塚) |
| 2月 | □討議□協議□協議□協議(オールメンバー計画) | 第3エリア合同例会 シニア総会 | 9月 | |
| 3月 | □討議□審議□協議□審議(オールメンバー計画) | じゃがいもクラブ | 10月 | 全国大会(宇都宮) 拡大例会実施 |
| 4月 | | | 11月 | 世界会議(ヨハネスブルク) |
| 5月 | | 下関JC周年 広島JC定期交歓会 | 12月 | □討議□審議□協議□審議(拡大例会報告) 卒業生を送る夕べ じゃがいもクラブ |

親 睦 交 流 推 進 委 員 会

委員会スローガン【笑顔のために】



委員長 阿部 健太郎
副委員長 田 嘉 貢
運営幹事 加 地 亮 太
会計幹事 草 野 裕 紀
広報幹事 濱 野 雅 行
拡大幹事 濱 田 正 輝
入 江 幸 治
岩 本 天 音
上 田 健 史
久 藤 拓 磨
手 島 貴 裕
那 須 亮 太
原 誠 一
安河内 治 伸

●基本方針

1953年2月4日に始まった福岡JC。68年という歴史の中で培われた歴史や伝統の上で、私たち現役メンバーは活動をしています。そこでは多くの「機会」が与えられ、メンバーの成長へと繋がっています。そして、その機会の中で仲間と苦楽を共にし、多くの経験を積むことでメンバー同士の絆が生まれるのです。しかし近年、様々な異業種団体も増えてきたことに加え、コミュニケーションツールも多く存在する中で、人と関わることが気薄になり、その結果正会員数の低下や在籍期間の短さに繋がっています。だからこそメンバー同士が様々な交流の機会に触れ、互いの信頼関係をこれまで以上に深めるきっかけを創っていく必要があります。

まずは、当委員会では「ぼうふら」の企画設営、「趣味の会」の支援を通し、メンバー一人ひとりにこれまで受け継がれた歴史や伝統を肌で感じてもらい、参加してよかったと感じてもらえる場を提供します。そして、卒業生の方にとって大きな事業である「全国大会」及びLOMナイトの企画設営を行い、多くのメンバーを巻き込み、宇都宮の地でしか味わうことのできないことを考え、思い出に残る大会にします。さらに、1959年の第1回開催以降、多くの感動を生み続けてきた「送る夕べ」事業の企画設営を行い、多くのシニアメンバー、現役メンバー、卒業生のご家族と共に卒業生の功績を讃え、それぞれの想いや感謝を伝えることが出来る最後の場を演出します。また、卒業生はもちろんのことメンバーやご家族の笑顔のために、卒業生とのコミュニケーションを図り、卒業生にとって最善の事業を構築します。

当委員会メンバーにとって、この1年間は福岡JCの歴史を肌で感じ、卒業生や多くのシニアメンバーの方と交流できる貴重な機会となります。この1年間の経験を活かし、私を含めた全メンバーの成長に繋げ、福岡JCの歴史や伝統を次世代へとつなぎ、新しい時代への希望となるような委員会運営を行ってまいります。

●事業計画

◇卒業生を送る夕べの企画・実施

〈目的〉福岡JCを卒業される昭和56年生45名のこれまでの功績を称え、参加者全員で盛大にお祝いすること。

〈方法〉56年生の皆様との交流を密にし、年間を通し56年会を行うことで卒業生同士の絆を深め、ファミリーレクリエーションなどを定期的に行うことで、ご家族の方にも参加促進を図ります。また、卒生にヒアリングを行い、送る夕べに来ていただきたいシニアメンバーを洗い出し、数多くの参加に繋がります。

□趣味の会に関する事項

◇ぼうふら会の設営・運営

〈目的〉麻雀というコミュニケーションツールを使い、趣味の会を通してシニアメンバーを始め現役メンバーとの交流の場を持つことで、今後のJC活動の指針とすること。

〈方法〉会長・キャプテンと連携し、会の運営が円滑に進むようにサポートします。

◇迷球会・FJCPONZ・ノーサイドクラブ・茶道同好会の支援

〈目的〉メンバー同士、またシニアメンバーの方との交流を通し親睦を深め、円滑な運営を行えるようそのサポートを行うこと。

〈方法〉会長・監督・キャプテンと調整を図り、大会・練習の運営補助を行います。

◇全国大会（宇都宮大会）への参加促進、LOMナイトの企画・実施

〈目的〉福岡JCを卒業される56年生の皆様をお祝いするとともに、メンバー同士の懇親を深めること。

〈方法〉現地調査を事前に行い、卒業生の思い出に残り多くのメンバーに参加して頂けるよう、宇都宮でしかできないLOMナイトを設営します。

◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉会員拡大においては、未来につないでいく事が出来ないという危機感を持ち、より良い活動を多くのメンバーと展開するための会員拡大を行う。研修に関しては、学びや出会いを通して多くの気づきを与え、「利他の精神」で行動できる仲間を育成すること。

〈方法〉会員全員が会員拡大の意識を持ち、効果的・効率的な情報発信を共有するため、毎月理事会前に拡大推進会議を実施し、各委員会の拡大幹事が推進役を担い新入会の促進を実施する。

◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。

〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努めます。

委員会年間スケジュール

| | 上程スケジュール | 行 事 | | 上程スケジュール | 行 事 |
|-------|----------|---------------------------------------|-----|----------------------|--|
| 2020年 | | | | | |
| 11月 | | | 6月 | | 福岡ブロック大会（大川） オールメンバーの集い ASPAC（台中） 香港シティJC周年 ぼうふら会 FJCPONZ（九州地区大会） |
| 12月 | | | 7月 | | サマーコンファレンス 迷球会（第3エリア野球大会） |
| 2021年 | | | | | |
| 1月 | | 京都会議 茶道同好会 | 8月 | □討議□協議□協議□審議（送る夕べ計画） | 九州地区大会（飯塚） 迷球会（福岡ブロック大会） |
| 2月 | | 第3エリア合同例会 | 9月 | □討議□協議□協議□審議（送る夕べ計画） | ぼうふら会 迷球会（九州地区大会） |
| 3月 | | ぼうふら会 | 10月 | | 全国大会（宇都宮） FJCPONZ（全国大会） |
| 4月 | | | 11月 | | 世界会議（ヨハネスブルク） |
| 5月 | | 下関JC周年 広島JC定期交歓会 ノーサイドクラブ（全国大会） | 12月 | | ぼうふら会 送る夕べ |



室 長 堤 祐 一 郎

●基本方針

現在、福岡には多くの親睦団体・慈善団体が数多くあります。団体としてのアイデンティティを突き詰める必要性がある中、福岡青年会議所にとってのそれは何を指すのか。その確立こそが青年会議所が、福岡のまちやひとに対して唯一無二の団体であることのアピールへと繋がっていくことになるのではないのでしょうか。

「例会委員会」においては、青年会議所の強みである「集い」を実行します。コロナ禍の中、その集いをどういった形で、どういった狙いをもって行うのか。メンバーの結束がより力強いものとなるよう実施してまいります。

「JCI FUKUOKA発信委員会」においては、青年会議所の活動を、時代に沿った効果的な発信を行い、対外への発信窓口としての機能を有するとともに、あらたに従来の産学官民等との連携を個と個で終わることなく、団体として行っていくことにより、その連携をさらに強固なものへと発展させていきます。

JC運動発信室として、「JC運動」について「これまでの伝統」と「これからの展望」を両委員会が「内」に「外」にへと、発信していくことが福岡青年会議所を新たな時代へと導いていくことと信じて1年間邁進してまいります。

例 会 委 員 会

委員会スローガン【一人はみんなのために、みんなは一人のために】



委員長 新谷 健一
副委員長 池田 祐一郎
運営幹事 大幡 則文
会計幹事 大池 尻将悟
広報幹事 鶴 和晃
拡大幹事 宮崎 祥平
大古 恒明
後藤 彩華
島居 百年
豊島 知
平山 健一郎
山下 宏一朗
横田 銀次

●基本方針

例会は、福岡JCの全メンバーが集い理事長の想いを聴き、福岡JCの存在意義やめざすべき方向性をメンバー間で確認する場とともに、他委員会との情報交換を行い、メンバー同士が親睦を図ることのできる月に1度の最も貴重な場であります。その貴重な例会に、全メンバーの参加義務があるものの、昨今の参加人数をみるかぎり、まだまだ参加動員率を向上させる必要があります。まずは、例会委員会一同が、例会は理事長主催の最も貴重な場であるということに、自覚とプライドをもち、参加動員率を常に意識しながら全メンバーが参加したくなる会の企画・運営を行います。

そして、各委員会の事業や取り組みをアピールする場、出向者からの情報発信の場として、お互いの活動を認識し合い、メンバー同士の関係性がより深まる有意義な時間になる設営を行います。また、例会に義務感だけで参加してもらうのではなく、全メンバーが自ら率先して参加したくなるよう、例会委員会一同、おもてなしの心を持ち、福岡JCの古き良き伝統を大事にしつつ、変化を恐れることなく新しいことへの挑戦を続け多くの「気付きや学び」を得る魅力ある例会を設営してまいります。

ファミリーレクリエーションにおいては、日々支えていただいているご家族に感謝を伝えるとともに、ご家族同士、メンバー同士の交流がより深まるよう、「ワクワク」「ドキドキ」するような企画・設営を行います。

最後に、例会は全メンバーが集う場であるからこそ、例会委員会メンバーが「所作」を重んじJCマンの模範となるべく取り組んでまいります。そして、所務に対していただいている以上の成果を達成するため、メンバー同士が切磋琢磨しながら行動し、本音で語り、本気で胸が熱くなる委員会運営を行い、互いが成長できる場を委員会メンバー全員で作ってまいります。

JCでの一つひとつの「気付きや学び」を会社や家族にもち帰ることのできる1年間にしていきます。

●事業計画

◇新春例会の実施(1月)

〈目的〉新年の門出をメンバー一同で祝い、理事長の所信を聴き、2021年度の福岡JCの方向性を理解し新たなスタートをきること。
〈方法〉来賓の方々をはじめ、全メンバーが集っていただけるよう、参加促進を行い、厳粛かつ華やかな雰囲気の中、会を行えるような会場設営・運営を行う。

◇福岡ブロック第3エリア合同例会の実施(2月)

〈目的〉福岡ブロック協議会会長をお招きし、福岡ブロック協議会の方針を理解するとともに、第3エリア内のメンバーと交流を図り、お互いのJC活動を理解し、結束を強めること。

〈方法〉主幹LOMとしての立場で、朝倉JC、糸島JC、つくしJCとの連携を常に図り、福岡ブロックの方針を理解し、また4LOMの交流が図れる会の設営・運営を行う。

◇短縮例会の実施(6月、9月、12月)

〈目的〉理事長の想いを聴き、全メンバーがLOMの現在の動き、方向性を再確認すること。

〈方法〉各委員会と連携をとり、効率的な運営を行うとともに、しっかりと報告・連絡ができる会の設営を行う。

◇ファミリーレクリエーション例会の実施(7月)

〈目的〉日々メンバーを支えていただいているご家族への感謝を伝え、ご家族にJC活動を知ってもらい、その良さを理解してもらおう。そのことで、メンバーが今後のJC活動を積極的に取り組める環境を作ること。

〈方法〉多くのメンバー・家族が参加でき、家族ぐるみの交流もでき、その家族が毎年のファミリーレクリエーションを楽しむしてもらい参加したいと思える会の設営・運営を行う。

◇通常例会の実施の補助(8月会員育成委員会実施)

〈目的〉LOMとして一体感を感じるとともに、メンバー同士の更なる交流を深めること。

〈方法〉会員育成委員会が執り行う、通常例会において、会員育成委員会と常に連携をとり効率的な運営を行うとともに、しっかりと報告・連絡ができる会の設営を行う。

◇拡大例会の実施の補助(10月会員拡大推進委員会実施)

〈目的〉会員全員が会員拡大の意識を持ち、メンバー同士の更なる交流を深めること。

〈方法〉会員拡大推進委員会が執り行う、拡大例会において、会員拡大推進委員会と常に連携をとり効率的な運営を行うとともに、しっかりと報告・連絡ができる会の設営を行う。

◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉会員拡大においては、未来につないでいく事が出来ないという危機感を持ち、より良い活動を多くのメンバーと展開するための会員拡大を行う。研修に関しては、学びや出会いを通して多くの気づきを与え、「利他の精神」で行動できる仲間を育成する。

〈方法〉会員全員が会員拡大の意識を持ち、効果的・効率的な情報発信を共有するため、毎月理事会前に拡大推進会議を実施し、各委員会の拡大幹事が推進役を担い新入会の促進を実施する。

◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献する。

〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。

委員会年間スケジュール

| | 上程スケジュール | 行 事 | 上程スケジュール | 行 事 |
|--------------|---|--------------------|---|--|
| 2020年 11月 | □討議□協議(新春例会事業計画) | | 6月 □討議□協議(9月度短縮例会事業計画) | 事業実施(短縮例会) オールメンバーの集い、 福岡ブロック大会(大川) ASPAC(台中) 香港シティJC周年 |
| 12月 | □討議□審議(新春例会事業計画) □討議□協議(第3エリア合同例会事業計画) | | 7月 □討議□審議(6月度短縮例会事業報告) □討議□審議(9月度短縮例会事業計画) | 事業実施(ファミリーレクリエーション例会) サマコンパランス |
| 2021年 1月 | □討議□審議(第3エリア合同例会事業計画) | 事業実施(新春例会) 京都会議 | 8月 □討議□審議□協議□審議(7月度ファミレク例会事業報告) | 通常例会(補助) 九州地区大会(飯塚) |
| 2月 | □討議□審議(新春例会事業報告) | 事業実施(第3エリア合同例会) | 9月 □討議□協議(12月度短縮例会事業計画) | 事業実施(短縮例会) |
| 3月 | □討議□協議(6月度短縮例会事業計画) □討議□審議(第3エリア合同例会事業報告) | | 10月 □討議□審議(9月度短縮例会事業報告) □討議□審議(12月度短縮例会事業計画) | 全国大会(宇都宮) |
| 4月 | □協議□審議(6月度短縮例会事業計画) □討議□協議□協議□協議(7月度ファミレク例会事業計画) | | 11月 | 拡大例会(補助) 世界会議(ヨハネスブルク) |
| 5月 | □討議□審議□協議□審議(7月度ファミレク例会事業計画) | 下関JC周年 広島定期交歓会 | 12月 | 事業実施(短縮例会) 卒業生を送る夕べ |

委員会スローガン【フォーカス】



委員長 原 谷 翼
副委員長 板 切 和
運営幹事 島 越 雄
会計幹事 岩 船 拓
広報幹事 津 田 幹
拡大幹事 三 浦 隆
秋 吉 由
川 島 裕
黒 川 悠
中 村 拓
馬 場 寛
二 塚 征
吉 岡 昭

●基本方針

テレビ、ラジオが情報収集の主な手段であった時代から、インターネットの普及やLINE・Facebook・インスタグラム・TwitterをはじめとするSNSの登場により、情報を受信するのみだった個人が、いつでも自由に情報を発信できる時代に変化してきました。

いどこにいても情報を収集できる便利な時代になる一方で、誤った情報や、人を傷付ける情報、人を騙すための情報も身近にある時代へとなっています。

このような時代を生きる我々と次世代を担う子供たちは情報に振り回されるのではなく情報をコントロールする確かな目を養っていく必要があります。

このような目まぐるしく変化していく時代のなかで68年もの間脈々と歴史を築いてきた福岡青年会議所は、いつの時代においても、時代やまち、そして市民の背景をしっかりと捉え、課題や問題を解決する為の目的をしっかりと果たすべく様々な手法で事業に取り組んで参りました。

何の利害関係もなく誰に支配される訳でもない若き青年経済人の団体であるからこそ発想を豊かにし様々なアイデアを出し合い、行政や企業だけでは斬り込んでいきづらい分野や事柄についても果敢に挑戦する事が出来ます。

2021年も福岡青年会議所は、まちの為、FUKUOKAの為に若きエネルギーで様々な問題に対して果敢に挑戦していきます。しかし、これらの取り組みや事業が福岡青年会議所現役メンバーだけの自己満足で終わらせてはいけません。本来のJCIの目的にもある「能動的な市民」を一人でも多く作っていくためには、我々の様々な取り組みや、我々の素晴らしい仲間存在を一人でも多くの市民の方々に知って頂く必要があります。

よって、我々JCI FUKUOKA発信委員会は、対内の各事業に当委員会メンバーが直接赴き対内の情報収集及び、対内対外への情報発信をする事によって、福岡青年会議所の新たな歴史の瞬間、さらには福岡青年会議所メンバーの喜怒哀楽に満ち溢れた表情や、メンバーが躍動する姿を、一瞬たりとも見逃さずフォーカスし続けます。

また、このような取り組みを1年間継続した暁には、当委員会メンバーが2021年12月31日を迎える頃には福岡青年会議所のこと、まちのこと、メンバーのことを深く知ることができ、福岡青年会議所を未だ見ぬさらなる次のステージへと引っ張っていくリーダーへと成長させます。

●事業計画

□LOM運動の広報手法を調査・研究し、効果的な情報発信の実施

◇LOMホームページの企画・管理・運営

〈目的〉福岡青年会議所の取り組みや事業を広く正しく対外、対内ともに情報発信すること。

〈方法〉2021年度版のホームページを新たに作り、随時更新することによって対内・対外の方々に情報発信を行う。

◇LOM紹介映像の制作

〈目的〉〔対外〕福岡青年会議所の歴史や先輩方、そして最近取り組んできた事業などを知って頂く。

〔対内〕福岡青年会議所の歴史や先輩方、また最近取り組んできた事業などを改めて視聴する事によって今後のJAYCEE活動へのさらなる機運向上に繋げる。

〈方法〉2021年度版のLOM紹介映像を作り、ホームページにて常時誰もが視聴できるようにすると共にLOM内においても新春例会はじめ公開例会などにて定期的に映像を流す。

◇各種行事の情報発信

〈目的〉対外・対内へ最新の情報を随時発信する事により参加促進や拡大、さらには福岡青年会議所のブランディング向上に繋げる。

〈方法〉当委員会メンバーが実際に現地に赴き取材を実施し情報収集を行い、ホームページ上にて情報発信を行う。万が一、現地に行けない場合や、現場に入れない状況であっても、当委員会メンバー以外の方や様々な手法を用いて情報収集に努める。

◇SNSを利用した情報発信の管理・運営

〈目的〉福岡青年会議所の取り組みや事業を多くの方々へ情報発信する事によって、福岡青年会議所をより認知してもらう。

〈方法〉LINE@やFacebook、Instagram等を活用し随時最新情報を発信する。

◇プレスリリースに関する事項

〈目的〉マスメディア企業と協力的な関係を築き、福岡青年会議所の情報を発信すると共に、福岡青年会議所メンバーにとって必要な情報をキャッチし、メンバーに周知すること。

〈方法〉福岡青年会議所に所属するマスメディアのメンバーと定期的に懇親を図り、常に情報交換できる環境を整える。

□LOM活動の効果的な対外情報発信に関する管理・統括

◇外部団体からの取材などに関する対応

〈目的〉外部団体と友好的な関係を築き、両団体に対して有意義な情報交換をできる環境を整備したうえで他団体からの取材依頼などにも迅速に対応できる体制を創る。

〈方法〉他団体の集会などにも積極的に参加させて頂き関係構築を図る。

◇LOM活動における写真・動画などの記録・統括

〈目的〉様々な取り組みを後世に残すため。

〈方法〉各事業や集会に参加し写真・動画を撮影する。万が一、当委員会メンバーが参加できない場合は、現地にいらっしゃるメンバーに撮影を依頼する等の対応で記録を残す。

JCI FUKUOKA 発信委員会

- マスメディア各社との継続的な提携関係構築に関する事項
 - 〈目的〉 福岡青年会議所の様々な取り組みや事業を、より多くの市民に発信すること。
 - 〈方法〉 福岡青年会議所に所属するマスメディア関連のメンバーと継続的に懇親を深め、いつ何時でも情報交換できる協力的な関係をより強固なものにすると共に、まだ福岡青年会議所に入会されていないマスメディアの方々にもお会いし、協力的な関係を築くと同時に、福岡青年会議所に入会して頂けるように、積極的に拡大活動を行う。
- 出向者の支援、ならびに対内への情報発信に関する事項
 - 〈目的〉 出向者が安心して最大限の能力を発揮できる環境を整える。
 - 〈方法〉 出向メンバーと綿密にコミュニケーションを図り、福岡開催などの集会や事業が開催される際は最大限の支援をする。またその他の事業についても対内メンバーへ随時情報を発信し続け参加促進に努める。
- 出向者セミナーの実施
 - 〈目的〉 日頃より福岡青年会議所メンバーの目が届きにくい所で、福岡青年会議所の為に一生懸命頑張っている出向者の出向先での活動を、出向した事のないメンバーにより深く理解してもらうことで出向への意欲を掻き立てると共に、出向して頂いているメンバーのJAYCEE活動へのさらなるモチベーションアップに貢献する。
 - 〈方法〉 2020年12月に1回目セミナー実施。2021年11月頃に2回目のセミナーを開催する。
- サマーコンファレンスへの参加促進、LOMナイトの企画・実施
 - 〈目的〉 出向者及び専務理事への慰労と感謝の思いをしっかりと伝え、福岡青年会議所のメンバー間の友情をより強固なものとするため。
 - 〈方法〉 サマーコンファレンス開催地において多くのメンバーにご参加頂きながら、盛大にLOMナイトを開催し、出向メンバーと専務理事に最大限のスポットライトを浴びて頂き、多くのメンバーから慰労と感謝の思いを伝えて頂く。
- 九州地区大会(飯塚)・ブロック大会(大川)への参加促進
 - 〈目的〉 大会開催地に多くのメンバーで参加する事によって九州地区及び福岡ブロックの取り組みを深く理解すると共に、出向して頂いているメンバーへの労いをする。
 - 〈方法〉 事業の詳細な情報を出向者より事前に聞き取ったうえで、頂いた情報を丁寧に福岡青年会議所のメンバーへ周知する。
- ◇ 会員拡大・研修に関する事項
 - 〈目的〉 会員拡大においては、未来につないでいく事ができないという危機感を持ち、より良い活動を多くのメンバーと展開するための会員拡大を行う。研修に関しては学びや出会いを通して多くの気づきを与え、「利他の精神」で行動できる仲間を育成する。
 - 〈方法〉 会員全員が会員拡大の意識を持ち、効果的・効率的な情報発信を共有するため、毎月理事会前に拡大推進会議を実施し、各委員会の拡大幹事が推進役を担い新入会の促進を実施する。
- ◇ 非常災害時における支援に関する事項
 - 〈目的〉 災害等起こった場合に、人的支援であったり、物資の支援など迅速かつ安全に行えるよう日頃から対策等考えておく。
 - 〈方法〉 過去の災害などから必要なものであったり、災害ボランティアなどの人的動員などもあらかじめ理解や把握できるよう、知識や対処法など理解しておく。

委員会年間スケジュール

| | 上程スケジュール | 行 事 | | 上程スケジュール | 行 事 |
|--------------|-----------------------------|-------------------------|-----|-----------------------------|--|
| 2020年 11月 | □ 討議 □ 協議 (ホームページ作成議案計画) | | 6月 | | 福岡ブロック大会(大川) オールメンバーの集い ASPAC(台中) 香港シティJC周年 |
| 12月 | □ 討議 □ 審議 (ホームページ作成議案計画) | 出向者セミナー1回目 | 7月 | | サマーコンファレンス サマコンLOMナイト企画・実施 |
| 2021年 1月 | | ホームページ・紹介動画運用開始 京都会議 | 8月 | | 九州地区大会(飯塚) |
| 2月 | | 第3エリア合同例会 | 9月 | | |
| 3月 | | | 10月 | | 全国大会(宇都宮) |
| 4月 | | | 11月 | | 世界会議(ヨハネスブルク) 出向者セミナー2回目 |
| 5月 | | 下関JC周年 広島定期交歓会 | 12月 | □ 討議 □ 審議 (ホームページ作成議案報告) | 卒業生を送るタペ |



室長 吉田 悠二

●基本方針

青年が集い、行動することで功績を残してきたJCも、目に見えないウイルスによって、活動の制限を余儀なくされました。社会が混乱する中でも青年らしい活動を続けていくためには、残すべきこと、変えていくべきことを明確にして行動する必要があります。この時代の転換期だからこそ、チャレンジングな事業計画に挑むことができます。

その中で、総務室は、この時代に即した風土の構築、社会的秩序の遵守、費用対効果の追求を目指します。柔軟な対応をしつつも、物事の本質を見極めて、会議体の運営、財政・規則面の審査に取り組みます。

また、そうした中で、メンバーシップの醸成やメンバーの成長というJCにとって欠かすことのできないことや、各委員会の運動や活動が円滑に行われるように、室一丸となり活動していきます。

総務委員会

委員会スローガン【仲間の為に】



●基本方針

私たちが行う運動・活動は常に効果的な発信や対内・対外に対する周知を迅速かつ確に行う必要があります。昨今、文明が発展している現在において会議体のあり方が変わっていく中、費用対効果を考え効率化、簡素化すべきものが求められる時代と成りつつあります。しかし、非効率であっても集うことによるメンバーシップの醸成、メンバーとの成長は必ず残していかなければならないものです。そのためには総務の全般的な機能を福岡JCの基礎として根源を支え福岡JCメンバー全員の活動・運動をより行いやすい環境を作りだしていくことが最も重要だと考えられます。福岡JCの運営と規律を守るため、ルールや期日を厳守し、全体のスケジュール管理を徹底し、総務委員会が率先して模範となるよう務めてまいります。また、世界大会(ヨハネスブルク)・ASPAC(台中)の参加促進につきまして、またとない機会が世界的規模の会議体に触れて頂けるよう大会のプログラム及び開催都市の歴史・文化を総務委員会全員で熟知し福岡JCメンバーがより多く参加できるよう発信致します。総務委員会は運営・設営を通して議案に触れ合う機会が多くあります。同じ仲間が作り上げて来た成果を総務委員会メンバー一人ひとりが想い、考え、福岡の未来がより豊かになるためサポートをしていきます。

最後に、一年を通して当たり前のことを当たり前にするのではなく、当たり前のことをいかに大げさに、かつ大胆に行なっていきます。仲間の笑顔の思い浮かべ、あいつの為にとお互いのお互いを支え合い一瞬一瞬を共に分かち合い、笑顔の絶えない一年を共に過ごしていきます。そして、先輩方が繋いできた歴史を継承し、躍動感あふれる福岡JCの未来を背負って立つ次世代のリーダーを必ず育成いたします。10年先でも集えば昔話を語り、ひとつの話題で全員が盛り上がる委員会をメンバーと共に作っていきます。

●事業計画

- ◇総会、理事会、常任理事会の設営・運営
 - 〈目的〉効率的で円滑な各会の会議が執り行われるよう、設営並びに運営を実施する
 - 〈方法〉充分な事前準備を行い、役割分割を明確にし、設営・運営を行う。
- ◇各委員会の議案上程スケジュール管理
 - 〈目的〉各議案の精度を上げるため、十分に議論ができるようにする。
 - 〈方法〉事前のスケジュールを促し、議案上程期限を遵守する。
- ◇各委員会の事業に関する議案審議
 - 〈目的〉各会議が円滑に執り行われるよう、事前に議案内容確認を行う。
 - 〈方法〉各委員会の議案にてリンク切れ・見積り添付・請求書添付・誤字脱字等の確認を行う。
- ◇各委員会議事録、事業報告書の管理・保持
 - 〈目的〉各委員会が毎月適正に運営されているかを確認し、議事録・事業報告に関して自覚を促す。
 - 〈方法〉各委員会からの議事録提出状況を把握し、期日内提出を徹底する。
- ◇委員会褒賞の企画・実施
 - 〈目的〉会員がモチベーション高く活動できるよう、各種褒賞を設定する。
 - 〈方法〉各種褒賞の企画・実施を行う。
- ◇会員規律、入会に関する事項
 - 〈目的〉会員の規律維持を徹底し、組織の永続性を図る。
 - 〈方法〉会員に規律徹底を促し、新入会員には入会審査時に分かりやすく説明する事により魅力あるJCの永続を意識し続ける。
- ◇役員、副、幹事セミナーの設営・運営
 - 〈目的〉財政面・規則面・コンプライアンス面に関する知識や見識を高めていただき、より精度の高い議案作成の援助を図る。
 - 〈方法〉議案作成の仕方などに関して、セミナーを開催する。またJC Iアクティブシチズンフレームワークに対応した事業構築となるように周知徹底する。
- ◇褒賞申請の作成(JC I・日本・地区・ブロック)
 - 〈目的〉当該年度の褒賞について、所定の時期に所定の内容にまとめ褒賞申請を行い、福岡JCの事業を全国に発信する。
 - 〈方法〉褒賞の種類、申請方法・時期をしっかりと把握し、各褒賞受賞を目指してエントリーを行う。
- ◇世界大会(ヨハネスブルク)への参加促進
 - 〈目的〉世界大会(ヨハネスブルク)への参加促進
 - 〈方法〉世界大会プログラム紹介やヨハネスブルクの歴史や街を紹介し、参加意欲が沸き立つように世界大会の窓口として情報を発信する。
- ◇ASPAC(台中)への参加促進
 - 〈目的〉ASPAC(台中)への参加促進
 - 〈方法〉ASPACプログラム紹介や台中の歴史や街を紹介し、参加意欲が沸き立つようにASPACの窓口として情報を発信する。
- ◇会員拡大・研修に関する事項
 - 〈目的〉会員拡大においては、未来につないでいく事が出来ないという危機感を持ち、より良い活動を多くのメンバーと展開するための会員拡大を行う。研修に関しては、学びや出会いを通して多くの気づきを与え、「利他の精神」で行動できる仲間を育成する。
 - 〈方法〉会員全員が会員拡大の意識を持ち、効果的・効率的な情報発信を共有するため、毎月理事会前に拡大推進会議を実施し、各委員会の拡大幹事が推進役を担い新入会の促進を実施する。
- ◇非常災害時における支援に関する事項
 - 〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献する。
 - 〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。

委員長 石崎 裕一
 副委員長 斎藤 健吾
 運営幹事 寺田 光児
 会計幹事 高見 慎也
 広報幹事 小木曾 圭太
 拡大幹事 末奥 若憲
 木村 泰斗
 橋本 剛
 三角 純康
 村岡 祐輔
 山吉 幸望
 村友 一佑

委員会年間スケジュール

| | 上程スケジュール | 行 事 | | 上程スケジュール | 行 事 |
|--------------|----------------------|-------------------|-----|----------|--|
| 2020年 11月 | □討議□協議(褒賞議案) | 新任理事セミナー、副幹事セミナー | 6月 | | 福岡ブロック大会(大川) オールメンバーの集い ASPAC(台中) 香港シティJC周年 |
| 12月 | □討議□審議□協議□審議(褒賞議案計画) | 入会審査(前期) | 7月 | | サマーコンファレンス |
| 2021年 1月 | | 京都会議 | 8月 | | 入会審査(後期) 九州地区大会(飯塚) |
| 2月 | | 第3エリア合同例会 | 9月 | | |
| 3月 | | | 10月 | | 全国大会(宇都宮) |
| 4月 | | 入会審査(中期) | 11月 | | 入会審査(前期) 世界会議(ヨハネスブルク) |
| 5月 | | 下関JC周年 広島定期交歓会 | 12月 | | 卒業生を送る夕べ |

財政規則審査委員会

委員会スローガン【Be trainable】



委員長 諸岡久司
副委員長 福島卓
運営幹事 伊達高志郎
会計幹事 西口昌宏
広報幹事 松本高行
拡大幹事 正岡憲司
安田拓智
池田拓史
石崎崇義
庄島健泰
鳥巢栄三
本村亮道

●基本方針

私たち福岡JCは、これまで福岡のまちの発展のために地域と密接な関係で様々な事業へ取り組み、規律ある組織運営の継続によって歩んで参りました。

昨年の新型コロナウイルス感染拡大により、今まで当たり前のように過ごしてきた日常生活は失われ、この福岡JCも新しい会議体への挑戦や事業構築の考え方など、大きな変化を遂げました。コロナ禍だからこそ、メンバーの会費から捻出される事業費が、本当に福岡のまちのため、メンバーのためになるのか、この部分を十分に精査し、事業の費用対効果やコンプライアンス対策を今まで以上に重視する必要があります。また近年の在籍年数の低下に伴い、メンバーの議案作成や事業構築への機会が減り、議案そのものの質が問われております。議案構築の手順及び質の向上を図るために、今一度、副幹事セミナー・財政規則審査セミナーを実施します。その中で、JCIアクティブシチズンフレームワークに対応した事業構築となるように周知徹底していきます。

この財政規則審査委員会は、LOMのすべての事業に関わることができ、事業の土台を裏方で支える一番重要な箇所であると認識しております。各委員会の議案作成で良きパートナーとして寄り添い、事業の財政面、規則面、コンプライアンス面に対して適時適切に委員会一同でサポートしていきます。この経験により、福岡のまちのこと、LOMのことを様々な角度から物事を見ることのできる「幅広い思考」、そしてまちづくり、ひとづくりの本質を学べる機会を作り「能動的な活動」ができる委員会を目指します。

委員会メンバー一人ひとりが、このJCに自分の存在意義を見つけ出し、日々の活動においても社会の規則を守り、一青年経済人として模範となるメンバーを育成していきます。

●事業計画

◇委員会事業に関する予算、決算の事前審査

〈目的〉メンバーからの会費を使って実施する事業について、予算が適正に計画、実施されているかを厳正に審査する。
〈方法〉各事業の背景、目的、手法を踏まえ、事業目的達成の見地から、予算、費用対効果、そして相対支出が適正かどうかを審査する。

◇委員会事業に関するコンプライアンス審査

〈目的〉各事業がコンプライアンスに適合するものであるかを審査し、社会のルールを遵守していく。
〈方法〉チェックリストを用い、法令・規則が遵守されているかを審査する。

◇役員、副、幹事セミナーの設営・運営

〈目的〉各会の運営方法、スタッフの各役割を明確にし、セミナーを通じて全メンバーに周知し、委員会活動の円滑化を図ること。
〈方法〉総務委員会と連携し、スタッフの役割について、また事業構築の財政面・規則面・コンプライアンス面に関しての知識向上となるセミナー資料を作成し、要点や変更点などを説明する。

◇財政規則審査セミナーの企画・実施

〈目的〉財政面・規則面・コンプライアンス面に関する知識や見識を高めていただき、より精度の高い議案作成の援助を図る。
〈方法〉議案作成の仕方などに関して、年2回のセミナーを開催する。またJCIアクティブシチズンフレームワークに対応した事業構築となるように周知徹底する。

◇広島定期交歓会の設営・運営

〈目的〉広島JCとの親睦を図り、絆を深めることにより、交流の歴史を引き継ぐこと。
〈方法〉新型コロナウイルス感染拡大に気を配り、その中でも広島JCとの懇親を深め、情報共有できる場の設営を行う。

◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉会員拡大においては、未来につないでいく事が出来ないという危機感を持ち、より良い活動を多くのメンバーと展開するための会員拡大を行う。研修に関しては、学びや出会いを通して多くの気づきを与え、「利他の精神」で行動できる仲間を育成する。
〈方法〉会員全員が会員拡大の意識を持ち、効果的・効率的な情報発信を共有するため、毎月理事会前に拡大推進会議を実施し、各委員会の拡大幹事が推進役を担い新入会の促進を実施する。

◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害時が発生した時に、迅速に災害支援を行い、まちに貢献する。
〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非日常に迅速に行動できるように努める。

委員会年間スケジュール

| | 上程スケジュール | 行 事 | | 上程スケジュール | 行 事 |
|-------|----------|-------------------|-----|----------|--|
| 2020年 | | | | | |
| 11月 | | | 6月 | | 第2回財政規則審査セミナー 福岡ブロック大会(大川) オールメンバーの集い ASPAC(台中) 香港シティJC周年 |
| 12月 | | 新任理事セミナー、副幹事セミナー | 7月 | | サマーコンファレンス |
| 2021年 | | | | | |
| 1月 | | 京都会議 | 8月 | | 九州地区大会(飯塚) |
| 2月 | | 第3エリア合同例会 | 9月 | | |
| 3月 | | 第1回財政規則審査セミナー | 10月 | | 全国大会(宇都宮) |
| 4月 | | | 11月 | | 世界会議(ヨハネスブルク) |
| 5月 | | 下関JC周年 広島定期交歓会 | 12月 | | 卒業生を送る夕べ |



室 長 石 坂 泰 三

●基本方針

今、日本青年会議所はじめ九州地区協議会、福岡ブロック協議会、福岡青年会議所と未曾有の事態に直面し、私たちにとって大きな変化が求められる時代と変化してきています。新たな時代に直面しJCの組織改革が必要とされている中、福岡青年会議所もこの時代に対応すべく変革しなければなりません。

今後よりよい福岡青年会議所になっていくためにも、最も身近な交流であり成長の機会でもある出向の機会を、より多くのメンバーに提供し、ひとづくり団体としてLOMメンバーの意識を高め成長していく必要があります。LOMでは経験できない事業運営経験や広域な情報の取得、そして何よりも日本全国にとどまらず世界中のJCメンバーとのネットワークを持つメンバーの増大は、LOMの力に必ずなると思います。出向メンバーを後押しし支援していくことで、LOMメンバーの成長を目指します。

一般社団法人 福岡青年会議所
2021年度 室・委員会 所務分掌規程

| | |
|--|--|
| <p>■MIRAI交流発信特別委員会</p> <p><input type="checkbox"/>IR (統合型リゾート) を含むインバウンドがもたらす可能性を調査・研究し、未来へとつながる事業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>公開例会の実施 (3月)</p> <p><input type="checkbox"/>会員拡大・研修に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/>非常災害時における支援に関する事項</p> | |
| <p>■MIRAIビジネス発信特別委員会</p> <p><input type="checkbox"/>福岡市の産業を調査・研究し、個と個を結ぶことによる経済の発展につながる事業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>公開例会の実施 (4月)</p> <p><input type="checkbox"/>会員拡大・研修に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/>非常災害時における支援に関する事項</p> | |
| <p>■人財育成室</p> <p><input type="checkbox"/>香港シティJCに関する事項</p> <p><input type="checkbox"/>トリオ会議に関する事項の補助</p> <p><input type="checkbox"/>サウスサイゴンJCに関する事項</p> | <p>■Kids Jaycee育成委員会</p> <p><input type="checkbox"/>能動的市民 (Kids Jaycee) の発掘と育成に関する事業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>通常例会の実施 (11月 Young Jaycee育成委員会合同開催)</p> <p><input type="checkbox"/>サウスサイゴンJCに関する事項の補助</p> <p><input type="checkbox"/>会員拡大・研修に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/>非常災害時における支援に関する事項</p> |
| | <p>■Young Jaycee育成委員会</p> <p><input type="checkbox"/>能動的市民 (Young Jaycee) の発掘と育成に関する事業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>通常例会の実施 (11月 Kids Jaycee育成委員会合同開催)</p> <p><input type="checkbox"/>香港シティJCに関する事項の補助</p> <p><input type="checkbox"/>会員拡大・研修に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/>非常災害時における支援に関する事項</p> |
| | <p>■会員育成委員会</p> <p><input type="checkbox"/>福岡JCの歴史、および福岡の歴史、地域特性の調査・研究</p> <p><input type="checkbox"/>仮入会者への指導・研修に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/>新入会者同期会事業に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/>やすらぎ荘に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/>通常例会の実施 (8月)</p> <p><input type="checkbox"/>会員拡大・研修に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/>非常災害時における支援に関する事項</p> |
| <p>■FUKUOKA文化室</p> <p><input type="checkbox"/>香港シティJCに関する事項の補助</p> <p><input type="checkbox"/>トリオ会議に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/>サウスサイゴンJCに関する事項の補助</p> | <p>■Made in FUKUOKA発信委員会</p> <p><input type="checkbox"/>FUKUOKAの歴史、伝統、文化を調査・研究し、発信する事業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>公開例会の実施 (5月 FUKUOKA ART発信委員会合同開催)</p> <p><input type="checkbox"/>トリオ会議に関する事項の補助</p> <p><input type="checkbox"/>会員拡大・研修に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/>非常災害時における支援に関する事項</p> |
| | <p>■FUKUOKA ART発信委員会</p> <p><input type="checkbox"/>FUKUOKAの歴史、芸術、才能を調査・研究・発掘し、発信する事業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>公開例会の実施 (5月 Made in FUKUOKA発信委員会合同開催)</p> <p><input type="checkbox"/>トリオ会議に関する事項の補助</p> <p><input type="checkbox"/>会員拡大・研修に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/>非常災害時における支援に関する事項</p> |
| <p>■メンバーシップ推進室</p> <p><input type="checkbox"/>香港シティJCに関する事項の補助</p> <p><input type="checkbox"/>トリオ会議に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/>サウスサイゴンJCに関する事項の補助</p> | <p>■会員拡大推進委員会</p> <p><input type="checkbox"/>会員拡大の推進</p> <p><input type="checkbox"/>オールメンバーの集いの実施</p> <p><input type="checkbox"/>拡大例会の実施 (10月)</p> <p><input type="checkbox"/>じゃがいもクラブの設営・運営</p> <p><input type="checkbox"/>シニアクラブに関する事項</p> <p><input type="checkbox"/>研修に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/>非常災害時における支援に関する事項</p> |
| | <p>■親睦交流推進委員会</p> <p><input type="checkbox"/>卒業生を送る夕べの企画・実施</p> <p><input type="checkbox"/>趣味の会に関する事項</p> <p> ◇ぼうふら会の設営・運営</p> <p> ◇迷球会・FJCPONZ・ノーサイドクラブ・茶道同友会の支援</p> <p><input type="checkbox"/>全国大会 (宇都宮大会) への参加促進、LOMナイトの企画・実施</p> <p><input type="checkbox"/>会員拡大・研修に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/>非常災害時における支援に関する事項</p> |

| | |
|---|--|
| <p>■JC運動発信室</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 香港シティJCに関する事項の補助 <input type="checkbox"/> トリオ会議に関する事項の補助 <input type="checkbox"/> サウスサイゴンJCに関する事項 | <p>■例会委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 新春例会の実施(1月) <input type="checkbox"/> 福岡ブロック第3エリア合同例会の実施(2月) <input type="checkbox"/> 短縮例会の実施(6月、9月、12月) <input type="checkbox"/> ファミリーレクリエーション例会の実施(7月) <input type="checkbox"/> 通常例会の実施の補助(8月 会員育成委員会実施) <input type="checkbox"/> 拡大例会の実施の補助(10月 会員拡大推進委員会実施) <input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項 <input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項 <p>■JCI FUKUOKA発信委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> LOM運動の広報手法を調査・研究し、効果的な情報発信の実施 <ul style="list-style-type: none"> ◇LOMホームページの管理・運営 ◇LOM紹介映像の制作 ◇各種行事の情報発信 ◇SNSを利用した情報発信の管理・運営 ◇プレスリリースに関する事項 <input type="checkbox"/> LOM活動の効果的な対外情報発信に関する管理・統括 <ul style="list-style-type: none"> ◇外部団体からの取材などに関する対応 ◇LOM活動における写真・動画などの記録・管理 <input type="checkbox"/> マスメディア各社との継続的な提携関係構築に関する事項 <input type="checkbox"/> 出向者の支援、ならびに対内への情報発信に関する事項 <input type="checkbox"/> 出向者セミナーの実施(年2回) <input type="checkbox"/> サマーコンファレンスへの参加促進、LOMナイトの企画・実施 <input type="checkbox"/> 九州地区大会(飯塚)への参加促進 <input type="checkbox"/> 福岡ブロック大会(大川)への参加促進 <input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項 <input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項 |
| <p>■総務室</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 香港シティJCに関する事項 <input type="checkbox"/> トリオ会議に関する事項の補助 <input type="checkbox"/> サウスサイゴンJCに関する事項の補助 | <p>■総務委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 総会、理事会、常任理事会の設営・運営 <input type="checkbox"/> 各委員会の議案上程スケジュール管理 <input type="checkbox"/> 各委員会の事業に関する議案審査 <input type="checkbox"/> 各委員会議事録、事業報告書の管理・保持 <input type="checkbox"/> 会員褒賞の企画・実施 <input type="checkbox"/> 会員規律、入会に関する事項 <input type="checkbox"/> 役員、副、幹事セミナーの設営・運営 <input type="checkbox"/> 褒賞申請の作成(JCI・日本・地区・ブロック) <input type="checkbox"/> 世界会議(ヨハネスブルク)への参加促進 <input type="checkbox"/> ASPAC(台中)への参加促進 <input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項 <input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項 <p>■財政規則審査委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 委員会事業に関する予算、決算の事前審査 <input type="checkbox"/> 委員会事業に関するコンプライアンス審査 <input type="checkbox"/> 役員、副、幹事セミナーの設営・運営 <input type="checkbox"/> 財政規則審査のセミナーの設営・運営 <input type="checkbox"/> 広島定期交歓会の設営・運営 <input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項 <input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項 |

| |
|--|
| <p>■日本JC関係室</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 出向者セミナーの実施(年2回)の補助 <input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項 <input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項 |
|--|

事務局長・常務理事・セクレタリー 所務分掌

| | |
|----------------------|---|
| <p>事務局長</p> | <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 外部団体出向、後援依頼の調査、確認に関する事項 <input type="checkbox"/> 会員名簿、名刺、ネームプレートの作成に関する事項 <input type="checkbox"/> 事務局の運営 <input type="checkbox"/> 常務理事・セクレタリーの統括 <input type="checkbox"/> 非常災害時における対応窓口 <input type="checkbox"/> 北九州JCとの交流に関する事項 <input type="checkbox"/> その他 |
| <p>常務理事</p> | <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 理事長の同行及び所務の補佐 <input type="checkbox"/> 専務理事、事務局長のサポート <input type="checkbox"/> 理事長のスケジュール管理、調整に関する事項 <input type="checkbox"/> 京都会議への参加促進、LOMナイトの企画・実施 <input type="checkbox"/> その他 |
| <p>セクレタリー</p> | <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 理事長の同行及び所務の補佐 <input type="checkbox"/> 京都会議への参加促進、LOMナイトの企画・実施 <input type="checkbox"/> その他 |

一般社団法人 福岡青年会議所 2021年度 委員会編成表

| 理事 長 彌 登 義 明 | | | | | | | | | | | |
|--------------|---------------|--------|------------|-------------|----------|------------|--------|--------|--------|-------|--------|
| 副理事長 | 橋本 久志 | 義毛 亮 | 古市 剛 | 前川 裕貴 | 西嶋 聖 | 事務理事 戸嶋 大一 | 直前理事長 | | | | |
| 事務理事 | MIMA交通通信特別委員会 | 人財育成室 | FUKUOKA文化室 | メンバースタッフ推進室 | J・C運動発信室 | 総務室 | 出田 正城 | | | | |
| 至長 | 中原 壮一朗 | 金海 安州之 | 水嶋 浩二 | 加地 大希 | 堤 祐一郎 | 吉田 悠二 | 井川 陽介 | | | | |
| 特別委員長 | | | | | | | 中野 越将 | | | | |
| 委員会 | | | | | | | 法制顧問 | | | | |
| 委員長 | | | | | | | 多賀谷 兵馬 | | | | |
| 副委員長 | | | | | | | 山口 剛弘 | | | | |
| 運営幹事 | | | | | | | 財政顧問 | | | | |
| 会計幹事 | | | | | | | 高木 正太郎 | | | | |
| 広報幹事 | | | | | | | 松岡 将史 | | | | |
| 総務幹事 | | | | | | | | | | | |
| (出向理事) | | | | | | | | | | | |
| 委員1. | 佐伯 岳大 | 岡本 健人 | 泉 雄介 | 有光 侑美 | 青山 零 | 石川 真弥 | 阿比留 真平 | 入江 幸治 | 大朝 恒明 | 秋吉 智博 | 馬場 秀一 |
| 2. | 千代 和明 | 北嶋 陽介 | 上原 慶介 | 岡部 英信 | 川口 光 | 上田 久紀 | 池田 聡 | 岩本 天吾 | 古賀 敦善 | 川島 裕司 | 池田 拓史 |
| 3. | 永藤 伸之 | 東室 美由紀 | 尾花 一樹 | 坂本 満康 | 城戸 一寿 | 熊谷 平助 | 石田 光彦 | 上田 健史 | 後藤 浩之 | 黒川 悠子 | 石崎 雅義 |
| 4. | 中間 悠介 | 中村 正史 | 小泉 太一 | 宮田 雄嗣 | 坂田 裕之 | 下川 浩平 | 川嶋 深典 | 久藤 拓慶 | 島尻 百年 | 中村 拓也 | 庄島 健泰 |
| 5. | 野上 俊彦 | 成富 崇智 | 古賀 裕一 | 林 美奈 | 首藤 光生 | 新家 正久 | 隈 健太郎 | 手島 真裕 | 豊島 知 | 馬場 真幸 | 島根 崇三郎 |
| 6. | 丸野 正利 | 平野 正紀 | 鈴木 健太郎 | 本田 正樹 | 中村 泰治 | 武本 一利 | 松本 大 | 那須 亮太 | 平山 健一郎 | 二塚 征爾 | 吉村 亮一 |
| 7. | 山本 直史 | 藤野 哲司 | 武田 聖 | 杉瀬 浩司 | 古野 稔幸 | 野満 圭介 | 南 棧里 | 原 誠一郎 | 山下 宏一朗 | 吉岡 寛明 | 吉村 友佑 |
| 8. | 龍 紀昭 | 安河内 剛 | 谷川 進也 | 村津 万里 | 保利 一晶 | 古川 主税 | 村山 真人 | 安河内 浩伸 | 横田 銀次 | | |
| 9. | | | | | | | | | | | |
| 10. | | | | | | | | | | | |
| 11. | | | | | | | | | | | |
| 12. | | | | | | | | | | | |
| 13. | | | | | | | | | | | |
| 14. | | | | | | | | | | | |
| 15. | | | | | | | | | | | |
| 16. | | | | | | | | | | | |
| 17. | | | | | | | | | | | |
| 18. | | | | | | | | | | | |
| 19. | | | | | | | | | | | |
| 20. | | | | | | | | | | | |

青年会議所の概況

- JCI 加盟国 115 NOMs
- JCI 加盟 JC 数 約 4,662 LOMs 会員数 約 152,649 名 < 2019年11月現在 >
- 日本 JC 加盟 JC 数 692 LOMs 会員数 30,303 名 < 2020年10月26日現在 >
- JCI 福岡 会員数 216 名 < 2021年1月1日推定 >

- JCI 福岡 創立関連
 - 《 創 立 年 月 日 》 1953 年 2 月 4 日 《 スポンサー JC 》 JCI 宮崎
 - 《 法人許可年月日 》 1971 年 4 月 24 日
 - 《 一般社団法人
移行年月日 》 2013 年 10 月 1 日

- スポンサー JC JCI 飯塚、JCI 久留米、JCI 直方、JCI つくし、JCI 糸島

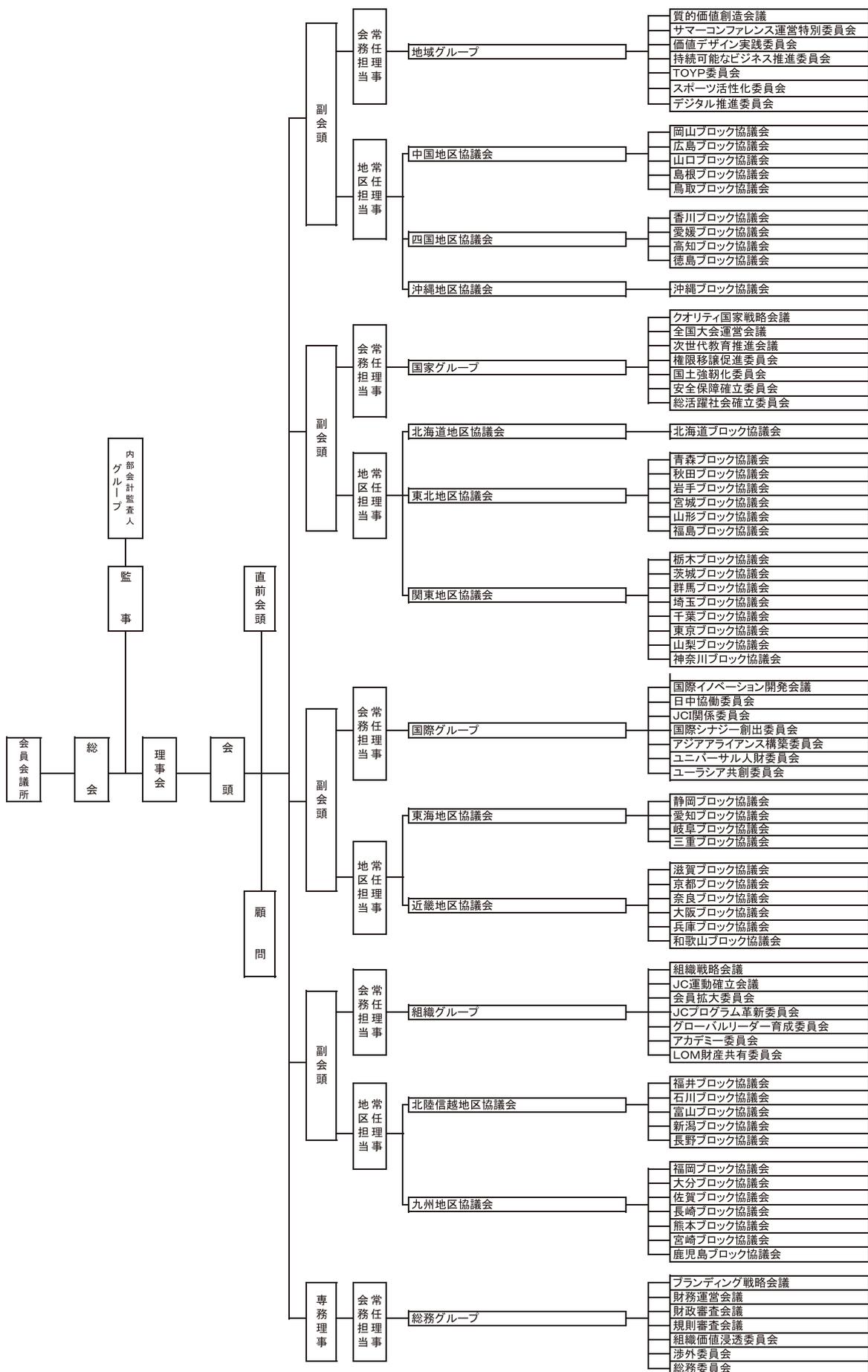
- シスター JC
 - JCI 釜山(韓国) 1965 年 4 月 20 日
※ JCI 下関と共にトリオ JC として姉妹締結
 - JCI 城市(香港) 1984 年 11 月 4 日 姉妹締結
 - JCI サウスサイゴン(ベトナム)
2016 年 11 月 1 日 姉妹締結

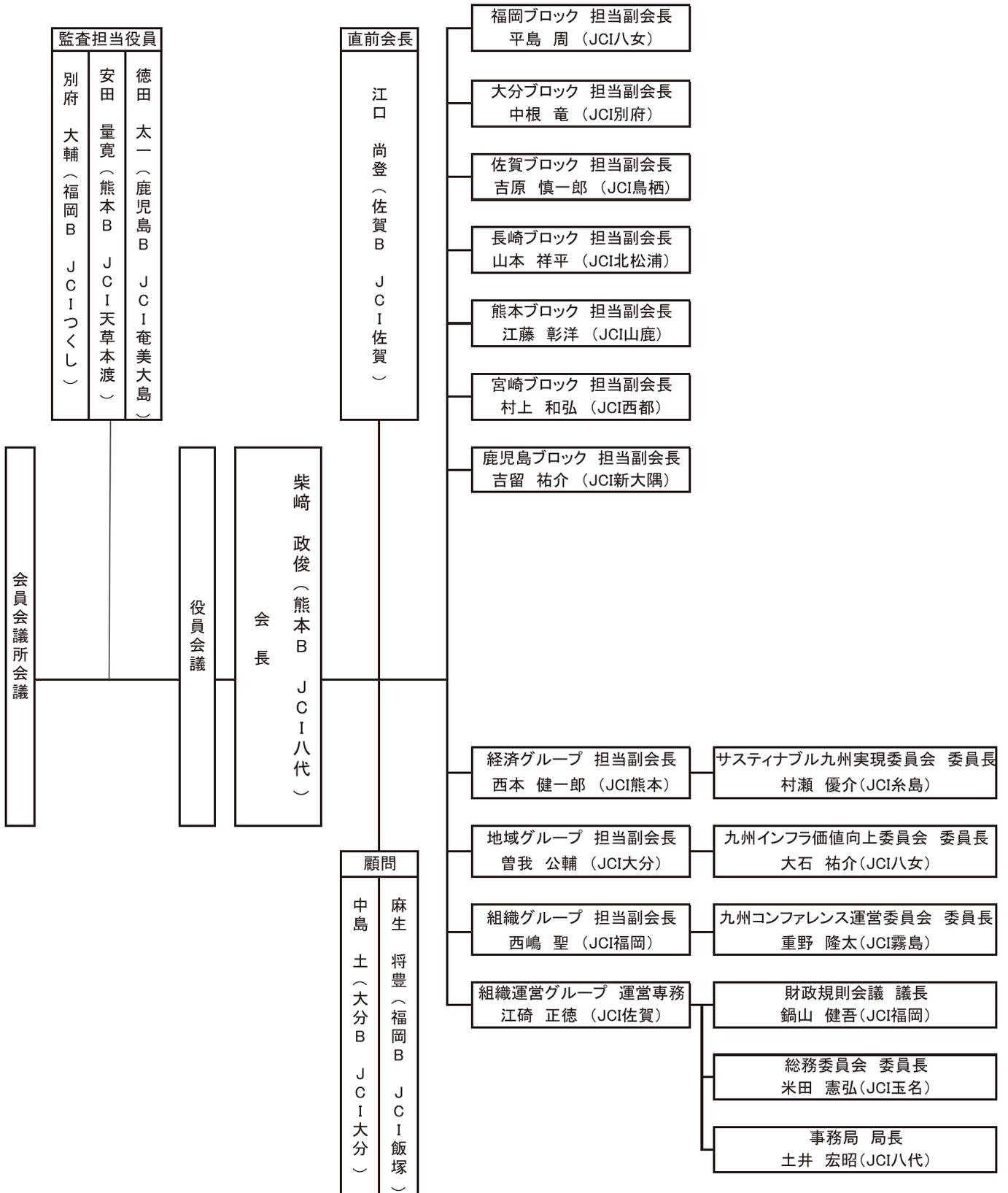
- 友好 LOM
 - JCI 北九州 2001 年 11 月 21 日 友好 LOM 締結
 - JCI 広島 1986 年から毎年、交歓会を開催

公益社団法人 日本青年会議所

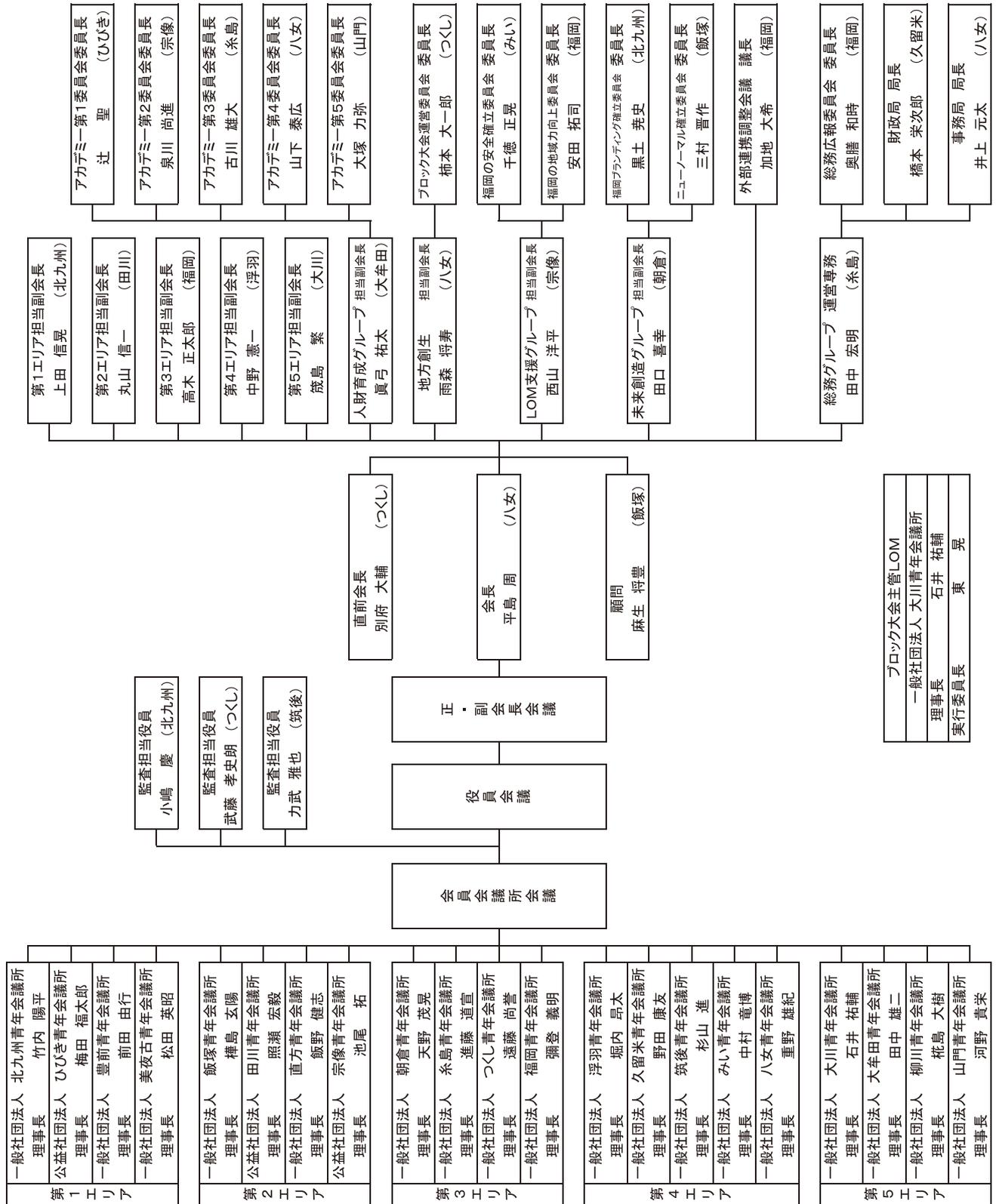
2021年度 基本資料(案)

組 織 図





2021年度福岡ブロック協議会 組織図



福岡青年会議所 歴代理事長

| | | | |
|----------------------------|-------|--------------|-------|
| 第1期 (1953年 2月~6月) | 橋上 保久 | 第36期 (1988年) | 財津 重美 |
| 第2期 (1953年7月~ 1954年6月) | 橋上 保久 | 第37期 (1989年) | 石坂 博史 |
| 第3期 (1954年7月~ 1955年6月) | 具島 正二 | 第38期 (1990年) | 真鍋 博俊 |
| 第4期 (1955年7月~ 1956年12月) | 具島 正二 | 第39期 (1991年) | 小林 専司 |
| 第5期 (1957年) | 伊藤 剛平 | 第40期 (1992年) | 樺島 逸兵 |
| 第6期 (1958年) | 高松 光彦 | 第41期 (1993年) | 菅原 正道 |
| 第7期 (1959年) | 武内 徳夫 | 第42期 (1994年) | 河邊 哲司 |
| 第8期 (1960年) | 野上 恭敬 | 第43期 (1995年) | 安川 哲史 |
| 第9期 (1961年) | 坂本 行雄 | 第44期 (1996年) | 松山 政司 |
| 第10期 (1962年) | 高松 邦彦 | 第45期 (1997年) | 吉松 修 |
| 第11期 (1963年) | 喜多村辰男 | 第46期 (1998年) | 田中 彰洋 |
| 第12期 (1964年) | 四島 司 | 第47期 (1999年) | 新町 敦志 |
| 第13期 (1965年) | 大賀禮太郎 | 第48期 (2000年) | 藤野 利浩 |
| 第14期 (1966年) | 麻生 純三 | 第49期 (2001年) | 井上 貴博 |
| 第15期 (1967年) | 久野 桂一 | 第50期 (2002年) | 岩本 仁 |
| 第16期 (1968年) | 中島 邦補 | 第51期 (2003年) | 廣田 稔 |
| 第17期 (1969年) | 栗栖健一郎 | 第52期 (2004年) | 井上 博行 |
| 第18期 (1970年) | 田中丸善司 | 第53期 (2005年) | 宮崎 鐘子 |
| 第19期 (1971年) | 後藤 隆雄 | 第54期 (2006年) | 小池 勝利 |
| 第20期 (1972年) | 洞 尚 | 第55期 (2007年) | 富永 太郎 |
| 第21期 (1973年) | 江口昭八郎 | 第56期 (2008年) | 新開 裕司 |
| 第22期 (1974年) | 金子 宜嗣 | 第57期 (2009年) | 大村 光 |
| 第23期 (1975年) | 近江 福雄 | 第58期 (2010年) | 大山 哲寿 |
| 第24期 (1976年) | 古賀 秀策 | 第59期 (2011年) | 長沼 慶也 |
| 第25期 (1977年) | 加地 良一 | 第60期 (2012年) | 末松 大和 |
| 第26期 (1978年) | 富永 恒二 | 第61期 (2013年) | 田川 幸平 |
| 第27期 (1979年) | 榎本 一彦 | 第62期 (2014年) | 森山 新樹 |
| 第28期 (1980年) | 冬至 洋一 | 第63期 (2015年) | 中田 泰平 |
| 第29期 (1981年) | 新川 宏輔 | 第64期 (2016年) | 藤 真臣 |
| 第30期 (1982年) | 青柳 泰秀 | 第65期 (2017年) | 鈴木 大輔 |
| 第31期 (1983年) | 熊谷 信治 | 第66期 (2018年) | 田島 敬悟 |
| 第32期 (1984年) | 福永 周兵 | 第67期 (2019年) | 岩木 勇人 |
| 第33期 (1985年) | 榎本 正弘 | 第68期 (2020年) | 出田 正城 |
| 第34期 (1986年) | 中牟田健一 | | |
| 第35期 (1987年) | 中村 量一 | | |

出向外部団体一覧

| | 団体名 |
|----|---|
| 1 | N P O 法人 アジア太平洋子ども会議・イン福岡 |
| 2 | アジア太平洋子ども会議・イン福岡支援の会 |
| 3 | アジア太平洋子ども会議・イン福岡実行委員会 |
| 4 | BCIO (Bridge Club International Organization) |
| 5 | アジアフォーカス・福岡国際映画祭実行委員会 |
| 6 | 福岡地域留学生交流推進協議会 |
| 7 | 福岡・US オークランド姉妹都市委員会 |
| 8 | 福岡・広州姉妹都市委員会 |
| 9 | 福岡・ボルドー姉妹都市委員会 |
| 10 | 福岡・NZ オークランド姉妹都市委員会 |
| 11 | 北方領土返還促進福岡県民協議会 |
| 12 | アビスパ福岡後援会 |
| 13 | 福岡市ごみ減量・リサイクル推進会議 |
| 14 | 一般社団法人 九州市民大学 |
| 15 | 福岡市民の祭振興会 |
| 16 | 福岡市地球温暖化対策市民協議会 |
| 17 | 福岡フィルムコミッション |
| 18 | 福岡市交通安全推進協議会 |
| 19 | 福岡市自動車交通公害防止計画推進協議委員会 |
| 20 | 犯罪のない安全で住みよいまちづくり推進本部 |
| 21 | FUKUOKA みらいプロジェクト |
| 22 | 福岡城・鴻臚館の将来を市民と考える実行委員会 |
| 23 | 地域司法連絡協議会 |
| 24 | FUKUOKA Christmas Market 実行委員会 |
| 25 | 福岡マラソン実行委員会 |
| 26 | アビスパグローバルアソシエイツ (AGA) |
| 27 | 一般社団法人 九州インターンシップ推進協議会 |
| 28 | 社会福祉法人 野の花学園 |
| 29 | 福岡トライアスロン大会 |
| 30 | グローバルコミュニティ FUKUOKA 推進プラットフォーム |
| 31 | 第 19 回 FINA 世界水泳選手権 2021 福岡大会組織委員会 |
| 32 | 第 19 回 FINA 世界水泳選手権 2021 福岡大会実行委員会 |
| 33 | 第 19 回 FINA 世界水泳選手権 2022 福岡大会財務支援委員会 |
| 34 | 福岡市社会福祉協議会第 6 期地域活動計画策定委員会 |
| 35 | 福岡ソフトバンクホークス優勝祝賀パレード実行委員会 |



一般社団法人 福岡青年会議所

〒812-0021

福岡市博多区築港本町 13-6 バイサイドプレイス博多 C棟

TEL: 092-263-6333 FAX: 092-263-6334

13-6, Chikkouhonmachi, Hakataku,

Fukuoka-shi, Fukuoka, 812-0021, JAPAN

PHONE +81-92-263-6333 FAX +81-92-263-6334

URL <http://www.fukuoka-jc.or.jp/>

E-mail jci-fukuoka@dream.jp